

(案)

大野市森林整備計画書

自 令和 8 年 4 月 1 日
計画期間
至 令和 18 年 3 月 31 日

令和 8 年 3 月

福 井 県
大 野 市

目 次

ページ

I 伐採、造林、間伐、保育その他森林の整備に関する基本的な事項

1 森林整備の現状と課題	1
2 森林整備の基本方針	1
3 森林施業の合理化に関する基本方針	5
4 災害に強い森づくりの基本方針	6
5 多面的な機能の持続的発揮のための基本方針	6

II 森林の整備に関する事項

第1 立木の標準伐期齢、立木の伐採の標準的な方法その他森林の立木竹の伐採に関する事項（間伐に関する事項を除く。）

1 樹種別の立木の標準伐期齢	7
2 立木の伐採（主伐）の標準的な方法	7
3 その他必要な事項	10

第2 造林樹種、造林の標準的な方法その他造林に関する事項

1 人工造林に関する事項	10
2 天然更新に関する事項	11
3 植栽によらなければ適確な更新が困難な森林に関する事項	13
4 森林法第10条の9第4項の規定に基づく伐採の中止又は造林をすべき旨の命令の基準	13
5 その他必要な事項	14

第3 間伐を実施すべき標準的な林齢、間伐及び保育の標準的な方法その他間伐及び保育の基準

1 間伐を実施すべき標準的な林齢及び間伐の標準的な方法	15
2 保育の種類別の標準的な方法	16
3 その他必要な事項	17

第4 公益的機能別施業森林区域及び当該公益的機能別施業森林区域内における施業の方法その他公益的機能別施業森林の整備に関する事項

1 公益的機能別施業森林の区域及び当該区域における施業の方法	17
2 木材の生産機能の維持増進を図るための森林施業を推進すべき森林の区域及び当該区域内における施業の方法	20
3 その他必要な事項	21

第5 委託を受けて行う森林の施業又は経営の実施の促進に関する事項

1 森林の経営の受委託等による森林の経営規模の拡大に関する方針	21
2 森林の経営の受委託等による森林の経営規模の拡大を促進するための方策	21
3 森林の施業又は経営の受託等を実施する上で留意すべき事項	21
4 森林経営管理制度の活用に関する事項	21
5 その他必要な事項	22

第6 森林施業の共同化の促進に関する事項	
1 森林施業の共同化の促進に関する方針	22
2 施業実施協定の締結その他森林施業の共同化の促進方策	22
3 共同して森林施業を実施する上で留意すべき事項	22
4 その他必要な事項	23

第7 作業路網その他森林の整備のために必要な施設の整備に関する事項	
1 効率的な森林施業を推進するための路網密度の水準及び作業システムに関する事項	23
2 路網の整備と併せて効率的な森林施業を推進する区域に関する事項	24
3 作業路網の整備に関する事項	24
4 林産物の搬出方法	25
4 5 その他必要な事項	25

第8 その他森林整備の方法に関し必要な事項	
1 林業に従事する者の養成及び確保に関する事項	25
2 森林施業の合理化を図るために必要な機械の導入の促進に関する事項	26
3 林産物の利用の促進のために必要な施設の整備に関する事項	26
4 その他必要な事項	26

III 森林の保護に関する事項

第1 鳥獣害の防止に関する事項	
1 鳥獣害防止森林区域及び当該区域内における鳥獣害の防止の方法	28
2 その他必要な事項	28
第2 森林病害虫の駆除及び予防、火災の予防その他の森林の保護に関する事項	
1 森林病害虫等の駆除及び予防の方法	28
2 鳥獣害対策の方法（第1に掲げる事項を除く。）	29
3 林野火災の予防の方法	29
4 森林病害虫の駆除等のための火入れを実施する場合の留意事項	29
5 その他必要な事項	29

IV その他森林の整備のために必要な事項

1 森林経営計画の作成に関する事項	30
2 生活環境の整備に関する事項	33
3 森林整備を通じた地域振興に関する事項	33
4 森林の総合利用の推進に関する事項	34
5 住民参加による森林の整備に関する事項	34
6 針広混交林化に関する事項	34
7 森林経営管理制度に基づく事業に関する事項	34
8 その他必要な事項	35

I 伐採、造林、間伐、保育その他森林の整備に関する基本的な事項

1 森林整備の現状と課題

大野市は、福井県の東部に位置し、北東は石川県、東と南は岐阜県、西は福井市と今立郡、北は勝山市と接し、市域の北西部に位置する大野盆地は、直径10kmほどの円形をしており、盆地の周囲は、靈峰白山の支脈に囲まれ、東に赤兎山と願教寺山、南東に荒島岳、南に能郷白山、北東に経ヶ岳など標高1,000m級の山々がそびえています。岐阜県境に源を発する九頭竜川は、その山並みを水源とする真名川、清滝川、赤根川をあわせて、大野盆地を南から北へ貫流し、上流で九頭竜峡や真名峡の渓谷美をつくり、流下して4,000haの沃野を潤し、肥沃な水田地帯を成しています。特に九頭竜川と真名川上流には多目的ダムがあり、^{かん}水源涵養機能の高い森林が大部分を占めています。

大野市の総面積は87,243haであり、森林面積は75,825haで、総面積の86.9%を占めています。民有林面積は、55,181haで、そのうちスギを主体とした人工林の面積は17,213ha、人工林率は31.20%と県平均(43.2%)より低くなっています。また、人工林のうち45年生以上の林分が約70%を占めており、本格的な利用期を迎えてています。今後は、若い林分の保育や間伐の適正な実施、木材の利用の促進により、森林資源の循環利用を進めていくことが重要です。

大野市の森林は、市民の生活に密着した里山林、林業生産活動が積極的に実施されるべき育成林、さらには、公益的機能の高い広葉樹が生育する天然生林となっています。また、森林に対する市民の意識や価値観が多様化し、求められる機能が多くなっていることから以下のような課題があります。

- (1) 西谷地区は、^{かん}水源涵養機能及び木材生産機能が高い森林が多く、市行造林と分収造林によるスギの造林が行われています。今後、より機能の高い森林を造成するため、保育や間伐などの適正な施業を実施していくことが重要です。また、和泉地区の上大納、下大納、下山地区は、人工林率が低く、天然生の広葉樹が広く存在することから、人工林の保育管理を実施するとともに、複層林施業を積極的に推進していくことが必要です。
- (2) 五箇地区の刈込池周辺や巣原地区の平家平周辺、和泉地区及び市街地周辺地区については、森林浴や森林レクリエーションなど保健休養機能の高い森林が多く、残された広葉樹林帯については、森林とのふれあいの場として活用が期待されています。
- (3) 五箇地区は、昭和40年頃より、オウレンの栽培基盤整備に取り組んできましたが、生産者の高齢化や採算性の低迷により、近年は栽培を見合わせる林家が多くなっています。今後は、後継者の育成による生産体制の確立が重要です。
- (4) 市街地周辺地区においては、シイタケ栽培が行われており、安定した生産量の確保や後継者の育成などが重要です。

2 森林整備の基本方針

森林の整備にあたっては、森林の有する多面的機能を総合的かつ高度に発揮させるため、^{かん}水源涵養機能、山地災害防止機能／土壤保全機能、快適環境形成機能、保健・レクリエーション機能、文化機能、生物多様性保全機能及び木材等生産機能の7つの機能の充実と併存する機能の発揮に配慮しつつ、それぞれの森林が特に発揮することを期待されている機能に応じて、市内の森林を^{かん}水源涵養機能林、山地災害防止機能林、生活環境保全機能林、保健文化機能林及び木材生産機能林の5つに区分し、発揮を期待する機能に応

じた適正な森林施業の実施により、健全な森林資源の維持造成を図ります。

なお、この5つの区域について森林整備を効率的に推進する観点から、目指すべき森林の姿を森林の公益的機能の発揮を主目的とした「環境保全に適した森林」と、木材の持続的な生産を主目的とした「資源の循環利用に適した森林」の2つにゾーニングし、それぞれに応じた森林整備を進めます。

(1) 地域の目指すべき森林資源の姿

発揮を期待する機能に応じた適正な森林整備及び保全の確保にあたり、森林の有する7つの多面的機能を総合的かつ高度に発揮する上で、望ましい森林の姿については次のとおりです。

なお、特に「木材等生産機能」の高い森林においては、花粉発生源となるスギなどの人工林の伐採・利用や花粉の少ない苗木などの導入を図るものとします。

ア 水源涵養機能

下層植生とともに樹木の根が発達することにより、水を蓄えるすき間に富んだ浸透・保水能力の高い森林土壤を有する森林であって、必要に応じて浸透を促進する施設などが整備されている森林

イ 山地災害防止機能／土壤保全機能

下層植生が生育するための空間が確保され、適度な光が射しこみ、下層植生とともに樹木の根が深く広く発達し土壤を保持する能力に優れた森林であって、必要に応じて山地災害を防ぐ施設が整備されている森林

ウ 快適環境形成機能

樹高が高く枝葉が多く茂っているなど遮へい能力が高く、諸被害に対する抵抗性が高い森林

エ 保健・レクリエーション機能

身近な自然や自然とのふれあいの場として適切に管理され、多様な樹種などからなり、市民などに憩いと学びの場を提供している森林

オ 文化機能

史跡・名勝などと一体となって潤いのある自然景観や歴史的風致を構成している森林であって、必要に応じて文化・教育的活動に適した施設が整備されている森林

カ 生物多様性保全機能

原生的な森林生態系、希少な生物が生育・生息する森林、陸域・水域にまたがり特有の生物が生育・生息する溪畔林など

キ 木材等生産機能

林木の生育に適した土壤を有し、木材として利用する上で良好な樹木により構成され、成長量が高い森林であって、林道などの基盤施設が適切に整備されている森林

(2) 森林整備の基本的な考え方及び森林施業の推進方策

森林の有する多面的機能を総合的かつ高度に発揮させるため、生物多様性の保全や近年の地球温暖化に伴い懸念される集中豪雨の増加などの自然環境の変化も考慮しつつ、適正な森林施業の実施や森林の保全の確保により健全な森林資源の維持増進を推進するとともに、その状況を適確に把握するための森林資源調査や森林の区域を明確にする森林G I Sの効果的な活用を図ります。

具体的には、森林の有する各機能が発揮される場である「流域」を基本的な単位として、森林の有する各機能を高度に発揮するため、併存する機能の発揮に配慮しつつ、重視すべき機能に応じた整備

及び保全を行う観点から、森林資源の状況、林道の整備状況、森林に関する自然的条件及び社会的要請を総合的に勘案し、それぞれの森林が特に発揮することを期待されている7つの多面的機能を重複する機能に応じて水源涵養機能林、山地災害防止機能林、生活環境保全機能林、保健文化機能林及び木材生産機能林の5つの区域に区分し、発揮を期待する機能に応じた森林区分ごとの整備推進方向を下記のとおりとします。

項目	水源涵養機能林 山地災害防止機能林	生活環境保全機能林 保健文化機能林	木材生産機能林
○基本方向	・高齢級の森林への誘導及び伐採に伴う裸地面積の縮小・分散	・自然環境等の保全・創出	・効率的・効果的な木材資源の活用
○主な施業と誘導方向 (育成单層林)	・針葉樹单層林(緩傾斜、高成長量)は適切な保育・間伐と伐期の長期化を基本とした单層状態の森林として育成・管理	・針葉樹单層林(里山等の緩傾斜、高成長量)は景観等への影響を配慮した適切な保育・間伐を基本として单層状態の森林として育成・管理	・針葉樹单層林(緩傾斜、高成長量)は適切な保育・間伐と多様な伐期による伐採と植栽での確実な更新を図り、单層状態の森林として育成・管理
(育成複層林)	・針葉樹单層林は、群状・帯状の伐採や択伐を基本に、状況に応じて択伐や天然力を活用した広葉樹導入による針広混交の複層状態の森林へ誘導 ・保安林等の天然生林は更新補助等により複層状態の森林として育成・管理	・都市近郊や里山林等は、広葉樹導入による針広混交の複層状態の森林へ誘導	・針葉樹单層林は、群状・帯状の伐採や択伐等により多様な林齡・齢級の林木を有する複層状態の森林へ誘導 ・針葉樹单層林に介在し、継続的な資源利用が見込まれる広葉樹林等は、更新補助等により複層状態の森林へ誘導
(天然生林)	・主として天然力を活用し、状況に応じて更新補助等により適切に保全・管理	・原生的な自然や貴重な野生生物の生育・生息地である森林をはじめ、すぐれた自然を構成する森林は必要に応じ植生の復元を図るなど適切に保全・管理	・尾根筋や沢筋、原木生産等の資源利用に適した森林等については主として天然力を活用し、必要に応じ更新補助等により適切に保全・管理

さらに、公益的機能の発揮を主目的とした「環境保全に適した森林」、木材の持続的な生産を主目的とした「資源の循環利用に適した森林」に大別することとし、次に掲げる項目を推進することにより、発揮を期待する機能に応じた多様な森林の整備及び保全を図ります。

- ア 育成单層林における保育・間伐及び主伐・再造林の積極的な推進
- イ 人的施業と天然力を適切に組み合わせた多様性に富む育成複層林の積極的な整備
- ウ 天然生林の適正な保全・管理
- エ 保安林制度の適切な運用と山地災害などの防止対策の推進
- オ 森林病害虫・野生鳥獣被害の防止対策の推進

環境保全に適した森林及び資源の循環利用に適した森林と発揮を期待する機能に応じた森林との関係は、次のとおりです。

- ア 環境保全の森環境保全に適した森林
 - (ア) 発揮を期待する機能に応じた森林区分のうち、木材生産機能林、水源涵養機能林、山地災害防

止機能林で、次の事項の資源の循環利用に適した森林を除いた森林

(イ) 発揮を期待する機能に応じた森林区分のうち、生活環境保全機能林、保健文化機能林

イ 資源の循環利用に適した森林

(ア) 木材の持続的な生産を主目的とする次の基準（目安）をすべて満たす人工林

- ・標高 800 m未満（スギの場合。樹種により異なる。）
- ・傾斜 30 度未満
- ・林道からの距離 300 m未満
- ・普通林又は禁伐・択伐の指定がない制限林

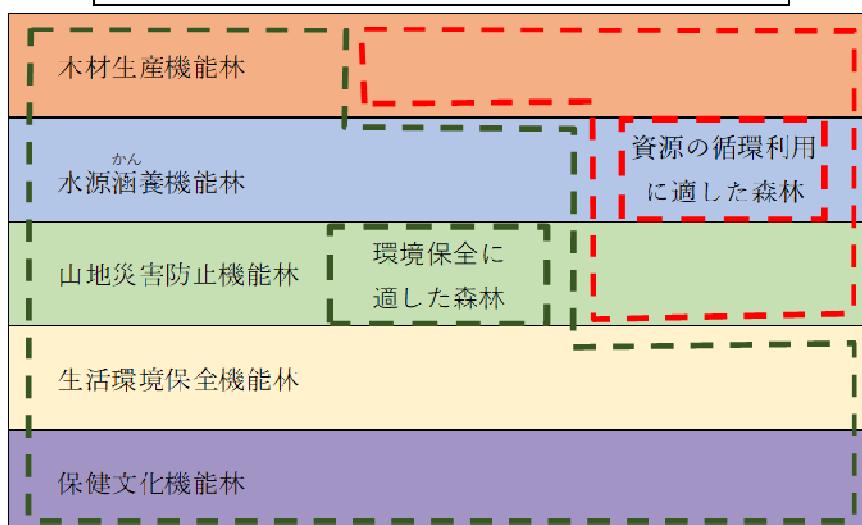
※ただし、上記以外でも成育状況が良く、林道から近い森林などは「資源の循環利用に適した森林」

としていきます。

(参考) 各区分の区域の考え方

区分	発揮を期待する機能に応じた森林 (公益的機能等森林)	森林の有する機能
環境保全に適した森林	・木材生産機能林	・主として木材生産機能の維持発揮を図る森林
	・水源涵養機能林	・主として水源涵養機能の維持発揮を図る森林
	・山地災害防止機能林	・主として山地災害防止／土壌保全機能の維持発揮を図る森林
	・生活環境保全機能林	・主として快適環境形成機能の維持発揮を図る森林
	・保健文化機能林	・主として保健・レクリエーション機能の維持発揮を図る森林 ・主として文化機能の維持発揮を図る森林 ・主として生物多様性保全機能の維持発揮を図る森林
資源の循環利用に適した森林	—	・主として木材生産機能の維持発揮を図る森林 (必要に応じ公益的機能の確保に留意する。)

目指すべき森林の区分と森林機能区分との関係（概念図）



(3) 人工林における収益性と災害リスクを基にしたゾーニング

森林のうち人工林においては、路網からの距離、地形の傾斜、斜面の崩れやすさ等を基準に収益性と災害リスクの観点からゾーニングを行い、資源の循環利用と環境保全に適した森林整備を推進していきます。

- ・収益性が高く災害リスクの低い林業適地では、主伐・再造林施業を図ります。
- ・人家裏などの非皆伐施業が適した地域では、小規模・多間伐施業を図ります。
- ・収益性の低い林業不適地では、公的整備による針広混交林への誘導など、自然力を活用した施業を図ります。

人工林におけるゾーニング（概念図）



※1 森林の所有と経営を分離し、条件の良い森林において効率的な主伐、再造林・保育を行い収益の向上と適切な再造林を進める循環型の林業。

※2 小規模な道づくり(幅員概ね2.5m以下)と簡易な機械(チェーンソー等)により木材生産を行う自立・自営的な林業。山林所有の有無や所有規模に関わらず、他者からの受託も含め森林の経営や管理、施業を自ら行う取組み。

3 森林施業の合理化に関する基本方針

大野市の森林所有形態は、小規模分散型であるため、個人が単独で行う森林施業の合理化には限界があります。そのため、森林所有者と森林組合などとの間に行政などの関係機関が加わる中で合意形成を図り、森林施業の集約化を進めることができます。また、境界や所在地が分からず放置されているような造林地においては、森林整備と同時に境界の確定を順次進めています。

さらに、長期展望に立ち、低コストで強固かつ永続的な路網を整備し、高性能林業機械を導入することで森林施業の合理化を図ります。加えて、森林所有者が森林組合などに森林経営や森林施業を委託することにより、林業従事者の確保や育成を促進し、森林施業の更なる合理化を図ります。

4 災害に強い森づくりの基本方針

平成16年に発生した福井豪雨の教訓を生かし、県民生活の安全を確保する観点から、福井県の「山間集落豪雨災害対策検討委員会」の提言を踏まえ、災害に強い森づくりのための森林施業を積極的に推進します。

具体的には、次の項目に留意し、森林整備を進めます。

ア 草地など未立木地における森林の造成促進

イ 生育不良な林分における林相の改良

ウ スギなど人工林における間伐などの実施を通じた根茎発達の促進や広葉樹などの下層植生の充実の推進

また、土石流に伴い発生する流木を防止するため、次の項目に留意し、森林管理に努めます。

ア 溪畔部における立木の根張りの発達促進のための間伐などの推進

イ 河川、渓流部における間伐木の処理方法に係る指導の徹底

ウ 豪雨時の洪水水位以下の区域への植栽の回避

5 多面的な機能の持続的発揮のための基本方針

林業や木材産業は、長期にわたる林業産出額や林業所得の減少、森林所有者の経営意欲や世代交代などに伴う管理意欲の減退などにより、間伐などの手入れ不足の森林が増加しており、このままでは森林の有する多面的な機能の持続的発揮が危惧される状況にあります。

このため、森林整備の推進にあたっては、森林計画制度の適切な運用を通じ、森林施業の効率化などによる林業採算性の向上、林業や木材産業関係者の連携強化のもとでの県産材の需要拡大、さらに「森林は市民共有の財産である」という認識のもと、森林整備支援に対する市民意識の醸成を図っていくことが必要です。

(1) 林業採算性の向上

森林施業にあたっては集落を単位とした施業の集約化のほか、森林の所有者と経営を分離し、林業適地での効率的な主伐・再造林等を推進するとともに、施業地の集約化に対応した林道などの路網の整備、高性能林業機械の導入や効率的な運用を通じ、林業採算性の向上を図ります。

このため、森林経営計画の樹立にあたっては基本的には林業適地を中心とした一定のまとまりをもつた森林区域を対象とし、適切な制度の運用を通じ、森林整備を推進します。

(2) 市産材の需要拡大

人工林が順次利用可能な段階を迎えてきていますが、十分に利用されている状況にはありません。このような中、間伐材を主燃料とする木質バイオマス発電施設（七板地係）が建設されたことから、市産材の需要が大幅に拡大しました。今後は、循環利用を基軸とした計画的な伐採及び造林の促進、並びに林業や木材産業関係者の連携強化による市産材の安定的供給体制の確立を図ることにより、バイオマス利用の需要量を確保しつつ、建築用材などの需要拡大に向けた施策に取り組みます。

(3) 森林整備支援に対する市民意識の醸成

森林は、山地災害の防止や人間に欠かすことのできない水や酸素を供給するなど、豊かな市民生活を実現する上で必要不可欠であることから、市民全体で森林を支えていくことが必要であり、「森林は市民共有の財産である」との認識の下、森林整備の必要性について広報に努め、市民の一層の理解の醸成

を図るとともに、「緑と花の県民運動」などの永続的な展開を通じて市民の参画を促進していきます。

II 森林の整備に関する事項

第1 立木の標準伐期齢、立木の伐採の標準的な方法その他森林の立木竹の伐採に関する事項（間伐に関する事項を除く。）

1 樹種別の立木の標準伐期齢

標準的な立木の伐採（主伐）の時期に関する指標である立木の標準伐期齢は、次表のとおりです。

なお、標準伐期齢は、標準的な立木の伐採（主伐）の時期に関する指標として定めるものですが、標準伐期齢に達した時点での森林の伐採を義務付けるものではありません。また、病害虫などの被害地などでの伐採や目的とする材の用途により、標準伐採齢に満たない林齢で主伐する場合には、当該森林の立地条件や公益的機能の発揮の必要度、伐採の目的などを勘案して適否を判断します。また、成長などの特性に優れた特定苗木などが調達可能となった場合は、その特性に対応した標準伐期齢の設定を検討します。

標準伐期齢の目安

地 域	スギ	樹 種				
		ヒノキ	マツ	カラマツ	ブナ・ ミズナラ	その他 広葉樹
大野市全域	45年	50年	40年	45年	65年	30年

2 立木の伐採（主伐）の標準的な方法

立木を伐採（主伐）する場合においては、森林の有する多面的な機能の維持増進を図ることを基本としつつ、気候や地形、土壤などの自然的条件、既往の施業体系や森林資源の構成、森林に対する社会的要請、施業制限の状況、木材の生産動向などを踏まえ立木の伐採（主伐）を次に示す施業の方法（皆伐又は択伐）に従って適切に行います。

また、スギの人工林については、今後の花粉の飛散を抑制していくため、伐採後は花粉の少ない苗木等による植え替えや広葉樹の導入を図るものとします。

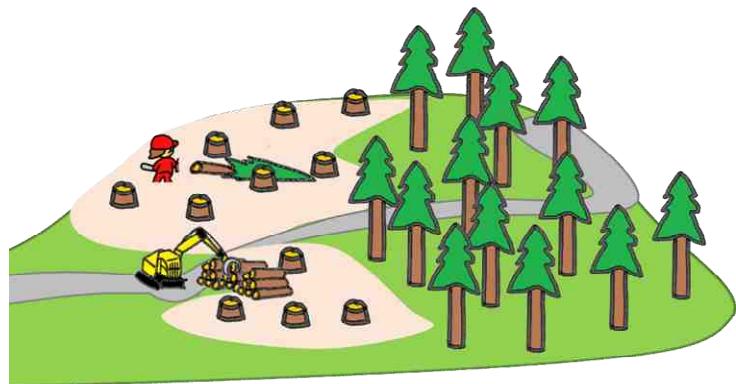
なお、主伐とは、皆伐又は択伐によって更新（伐採跡地（伐採により生じた無立木地）が再び森林となること）を伴う伐採です。

【皆伐】

皆伐については、主伐のうち択伐以外とします。

皆伐にあたっては、気候や地形、土壤などの自然条件及び公益的機能の確保の必要性を踏まえ、適切な伐採区域の形状、1箇所あたりの伐採面積の規模及び伐採区域のモザイク的配置に配慮し、伐採面積の規模に応じて、少なくともおおむね20haごとに保残帯を設けて適切な更新を図ります。

皆伐イメージ図

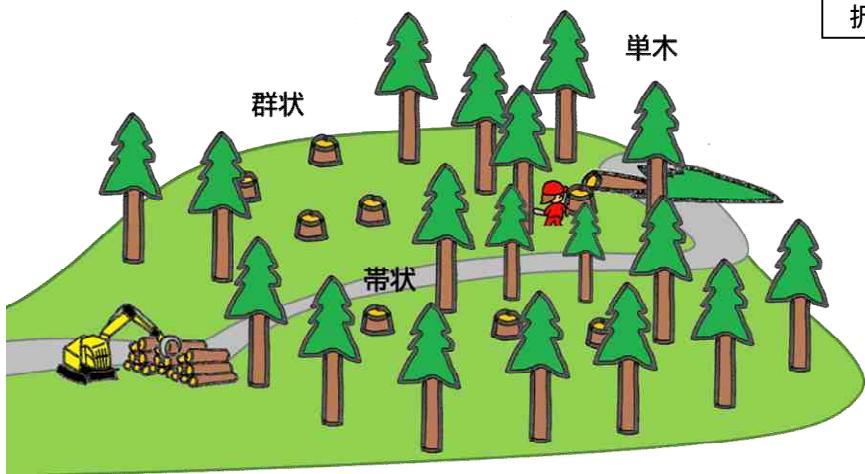


【択伐】

択伐については、主伐のうち、伐採区域の森林を構成する立木の一部を伐採する方法であって、単木、帯状又は樹群を単位として、伐採区域全体ではおおむね均等な割合で行います。

択伐にあたっては、森林の有する多面的機能の維持増進が図られる適正な林分構成となるよう、一定の立木材積を維持するものとし、原則として伐採率を30%以下（伐採後の造林が植栽による場合にあっては40%以下）とし、適切な更新を図ります。

択伐イメージ図



なお、立木の伐採の標準的な方法を進めるにあたっては、以下のア～オに留意します。

- ア 森林の有する多面的機能の維持増進を図ることを旨とし、皆伐及び択伐の標準的な方法について、立地条件や地域における既往の施業体系、樹種の特性、木材の需要構造、森林の構成などを勘案します。
- イ 森林の生物多様性の保全の観点から、野生生物の営巣などに重要な空洞木について、保残などに努めます。
- ウ 森林の多面的機能の発揮の観点から、伐採跡地が連続することのないよう、少なくとも周辺森林の成木の樹高程度の幅を確保します。
- エ 伐採後の適確な更新を確保するため、あらかじめ適切な更新の方法を定めその方法を勘案して伐採を行います。特に、伐採後の更新を天然更新による場合には、天然稚樹の生育状況、母樹の保存、種

子の結実などに配慮します。

オ 上記ア～エに定めるもののほか、「主伐時における伐採・搬出指針」（令和3年3月16日付け2林整整第1157号）及び「伐採作業と造林作業の連携等に関するガイドライン」（令和3年3月31日付け県材第209号）を考慮し行います。

(参考)

(1) 育成単層林

気候や地形、土壌など自然的条件、林業技術体系などからみて、人工造林又は萌芽更新により高い林地生産力が期待される森林及び森林の有する公益的機能の発揮の必要性から植栽を行うことが適当である森林について、次の事項に留意の上、実施します。

ア 主伐にあたっては、自然的条件及び公益的機能の発揮に対する影響度を踏まえ、1箇所あたりの伐採面積の規模や伐採箇所の分散に配慮し、適切な更新を図ります。

イ 主伐の時期については、高齢級の人工林が急増することなどを踏まえ、公益的機能の発揮との調和に配慮しつつ、木材など資源の安定的かつ効率的な循環・利用を考慮し、森林構成などを踏まえ、多様化、長期化を図ることとし、多様な木材需要に応じた林齢で伐採します。

(2) 育成複層林

間伐・択伐により部分的に伐採し、複数の層を構成する森林。

気候や地形、土壌などの自然的条件及び林業技術体系などからみて、人的施業と天然力の適切な組み合わせにより複数の樹冠層を構成する森林として成立し、森林の諸機能の維持増進が図られる森林について、次の事項に留意の上実施します。

ア 松くい虫被害林（アカマツ・クロマツ林）

松くい虫による被害林については、被害木の伐倒駆除などを実施し、下層に人工造林や天然更新により複層林へ誘導します。

イ 天然生広葉樹林

ブナやミズナラなどを主体とした天然林において、過熟な林木を対象に伐採し、森林の若返りを図り、活力ある森林へ誘導します。

また、生育途上にある森林であっても、有用な樹木を主体に、生育条件の改善のために不用木を伐採し、複層林へ誘導します。

ウ 短期二段林

^{かん} 水源涵養機能林などで、森林の諸機能の維持増進をより図らなければならないスギ、ヒノキを対象に、主伐の数年から数十年前に利用径級に達した立木を伐採し、下層に造林して短期二段林へ誘導します。

なお、冠雪害など気象災害によって生じた被害木は伐採するとともに、生じた林孔へ造林し、モザイク的択伐林へと誘導します。

エ 針広混交林

山地災害防止機能林などで、森林の諸機能の維持増進を継続的に図らなければならないスギ、ヒノキを対象に、段階的に立木を伐採し、下層に高木性広葉樹の植栽や天然更新で複層林へ誘導します。

(3) 天然生林

主として天然力の活用により、成立させ維持する森林。

気候や地形、土壌などの自然的条件及び林業技術体系などからみて、主として天然力を活用することにより適確な更新及び森林の諸機能の維持増進が図られる森林について、次のことに留意の上実施します。

この場合の1箇所あたりの伐採面積及び伐採箇所は、育成複層林に準じますが、更新を確保するため伐区の形状や母樹の保存などについて配慮します。

3 その他必要な事項

特になし

第2 造林樹種、造林の標準的な方法その他造林に関する事項

1 人工造林に関する事項

(1) 人工造林の対象樹種

人工造林の対象樹種は、次表に定める樹種を標準とし、植栽に係る樹種については、スギは沢沿い～斜面下部（南斜面の乾燥した土壌を除く。）、ヒノキは斜面中～上部、を基本として選定します。

なお、定められた樹種以外の樹種を植栽しようとする場合は、福井県奥越農林総合事務所林業普及指導員又は、大野市農業林業振興課とも相談の上、適切な樹種を選択することとし、造林用苗木は品種系統の明確な優良苗木を用いることとします。また、大野市の気候に適し、成長に優れかつ花粉の少ない特定苗木や無花粉・少花粉スギなど、各種花粉の少ない苗木の確保を図るため、その増加に努めます。

区分	針葉樹	広葉樹
人工造林をすべき樹種	スギ、ヒノキ、カラマツ等	クヌギ、ナラ類、ブナ、ケヤキ等

※アカマツを植栽する場合は、マツクイムシに対する抵抗性のあるマツを植栽します。

(2) 人工造林の標準的な方法

ア 人工造林の標準的な方法

人工造林は、施業の効率性や立地条件を踏まえ、既往の植栽本数や保安林の指定施業要件を勘案して、次表に示す1haあたりの標準的な植栽本数を植栽します。

なお、植栽本数の決定にあたり、植栽・保育経費の低減を図る場合など定められた標準的な植栽本数と大幅に異なる場合又は針広混交林を造成する場合は、福井県奥越農林総合事務所林業普及指導員又は大野市農業林業振興課に相談の上、適切な植栽本数を決定し、植栽します。また、木材の持続的な生産を主目的とした資源の循環利用に適した森林については、コンテナ苗などの活用や伐採と造林の一貫作業システム、低密度植栽の導入に努めます。

樹種	標準的な方法(本/ha)
スギ	2,000～2,500
ヒノキ	2,000～2,500
広葉樹	2,500～

イ その他人工造林の方法

人工造林は、次表に示す方法を標準として行います。

区分	標準的な方法
地拵えの方法	等高線沿いに堆積する全刈筋積を原則とする。なお、急傾斜地等の崩壊の危険性のある箇所については、生木棚積地拵を行い林地の保全に努める。
植付けの方法	長方形植え又は、三角植えとし、植え付けは丁寧植えとする。コンテナ苗についても根鉢の乾燥を避けるよう取り扱うとともに、植栽にあたっては、深植に注意し、根鉢と植穴に土を被せ空間が生じないように植穴の外周から内側に向けて軽く踏み、根鉢の上面より1～2cm程度の高さが植付後の水平面となるように土を寄せておくなど根鉢と土壤を十分に密着することとする。
植栽の時期	10月～11月中旬（春植えは5月）までに行う。

(3) 伐採跡地の人工造林をすべき期間

森林資源の積極的な造成を図り、林地の荒廃を防止するため、人工造林によるものについては、次のとおりとします。

皆伐	択伐
伐採が終了した日を含む年度の翌年度の初日から起算して2年を経過する日までの期間	伐採が終了した日を含む年度の翌年度の初日から起算して5年を超えない期間

※植栽によらなければ適確な更新が困難な森林についても同様とします。

2 天然更新に関する事項

天然更新については、前生稚樹の生育状況、母樹の存在など森林の現況や気候、地形、土壤などの自然条件及び林業技術体系などからみて、主として天然力の活用により適確な更新が図られる森林において行います。

(1) 天然更新の対象樹種

天然更新の樹種の選定にあたっては、福井県天然更新完了基準（令和4年9月改訂）に例示されている高木性の在来樹種とします。

なお、福井県天然更新完了基準 別表2で定めた群状伐採・帯状伐採に該当する場合は、例示されている小高木も更新対象樹種に含めることができます。

天然更新の対象樹種	高木性の在来樹種
萌芽による更新が可能な樹種	コナラ、ミズナラ、クヌギ、クリ、シラカシ、イヌブナ、ケヤキ、イヌシデ、ホオノキ、ヤブニッケイ、イタヤカエデ、カスミザクラ、エゾヤマザクラ等

(2) 天然更新の標準的な方法

萌芽更新については、伐採後5年以内に福井県天然更新完了基準に基づき更新状況の確認を行うこととし、当該萌芽の優劣が明らかとなる5年目頃に、根又は地際部から発生している萌芽を1株あたりの仕立て本数3本～5本を目安として、萌芽整理を行うことを定めます。

天然下種更新については、笹や粗腐植の堆積などにより更新が阻害されている箇所においては、末木枝条類の除去あるいは、かき起しを行います。また、発生した稚幼樹の生育を促進するための刈出しを行うほか、更新の不十分な箇所には、植え込みを行うことで天然下種更新を確実に行うよう努めます。

天然更新による対象樹種の期待成立本数及び標準的な天然更新補助作業の標準的な方法は、次表に示すとおりです。

ア 天然更新対象樹種の期待成立本数

樹種	期待成立本数
福井県天然更新完了基準に掲載されている高木性の在来樹種	10,000本/ha

イ 天然更新補助作業の標準的な方法

区分	標準的な方法
地表処理	ササの繁茂や枝条の堆積により、天然下種更新が阻害されている箇所については、かき起しや枝条整理等を行い、種子の定着及び発育の促進を図る。
刈出し	天然稚幼樹の成育がササ等の下層植生によって阻害される箇所については、稚幼樹の周囲を刈り払い稚幼樹の成長促進を図る。
植え込み	天然下種更新及び萌芽更新の不十分な箇所については、経営目標等に適した樹種を選定して植え込みを行う。
萌芽整理	萌芽更新を行った箇所において、目的樹種の発生状況により必要に応じて優良芽を1株あたり3～5本残すものとし、それ以外のものをかきとる。

ウ その他天然更新の方法

天然更新の完了確認は、福井県天然更新完了基準に基づく更新状況の確認を行い、更新が完了していない場合は、植え込み又は追加的な更新補助作業を実施し、確実な更新を図ります。

(3) 伐採跡地の天然更新をすべき期間

天然更新によるものについては、原則として、伐採後おおむね5年を超えない期間を目安とします。

3 植栽によらなければ適確な更新が困難な森林に関する事項

(1) 植栽によらなければ適確な更新が困難な森林の基準

現況が針葉樹人工林であり、母樹となり得る高木性の広葉樹林が更新対象地の斜面上方や周囲100m以内に存在せず、林床にも更新樹種が存在しない森林とします。

(2) 植栽によらなければ適確な更新が困難な森林の所在

原則として、次表に掲げる森林について、皆伐後必ず植栽を行います。

森林の区域 (林班)	備 考
大野地区 1～5, 7～19, 21～59, 61～66, 68, 70～74, 75～86, 90～100, 103, 105～107, 111～116, 121, 124, 128～130, 132～145, 147, 149, 152, 153, 155～161, 163～169, 172～177, 179～199, 202～207, 209, 210, 212～222, 224～233, 235, 236, 238, 239, 245, 246, 248, 250～252, 254～287, 290～321, 327, 332～356, 358～408, 410～425, 427～434, 436, 438, 439, 441～445, 447～460, 462～498, 502, 508	上記(1)の基準に照らし、天然更新が期待できない人工造林地に限る。 左記の区域内であっても、送電線下の伐採跡地については、植栽によらなければ適確な更新が困難な森林から除外する。ただし、設備の撤去等で利用目的が失われた場合は、人工造林等により速やかな更新を図る。
和泉地区 510～546, 548～567, 569～657, 659～707, 709～719, 724～726	

4 森林法第10条の9第4項の規定に基づく伐採の中止又は造林をすべき旨の命令の基準

森林法第10条の9第4項の伐採の中止又は造林の命令の基準については、次のとおり定めます。

(1) 造林に係る対象樹種

ア 人工造林の場合

スギ、ヒノキ、カラマツ、クヌギ、ナラ類、ブナ、ケヤキなど

イ 天然更新の場合

福井県天然更新完了基準に例示されている高木性の在来樹種

(2) 生育し得る最大の立木の本数として想定される本数

期待成立本数 10,000本/ha

5 その他必要な事項

育成複層林の導入にあたっては、気候や地形などの自然条件及び林道など基盤整備の状況などを充分勘案し、次表に示す内容を標準として持続的に維持、循環できる方法により導入を図ります。

施業 タイプ	施業内容	施業の得失							適用
		保 続 性 の 高 さ	作 業 の 平 準 化	保 水 機 能	下 刈 り 経 費 軽 減	伐 出 経 費 の 軽 減	管 理 経 費 の 軽 減	裸 地 状 態 の 回 避	
短期2段林	主伐の10～20年前に強度の間伐を行い、下木を植栽、その後上木をまとめて伐採、短期的に2段林とする施業。	○	○	○	◎			◎	
長期2段林	短期2段林と比べ2段林の期間が20年以上と長く、下木がかなり大きくなるまで2段林の形を保つ施業。できるだけ林齢が高い林分で進めていくことが望ましい。	○	○	○	◎	×	×	◎	
常時複層林	単層になる期間がなく常に2層以上の階層で構成されている多段林などで、択伐施業により伐採後の空間に下木を植栽し、常に複層林とする施業。	◎	◎	◎	◎	×	×	◎	
群状複層林	林分内に形と面積をほぼ同一とする群をランダムに配置し、群状に伐採更新し、あるインターバルで何回か繰り返し1巡、2巡させていく施業。	○	○	○		○			
帯状複層林	斜面に対して垂直(縦)もしくは水平(横)、及びその中間方向に帯状に伐採し、更新していく施業。帯の幅は優勢木の樹高程度が望ましい。	○	○			○	○	○	縦 横
単層林施業	短伐期施業	△	×		×	◎	◎	×	
	長伐期施業	△		○	×	◎	◎	×	

* ◎はより影響度が高いことを示す。

第3 間伐を実施すべき標準的な林齢、間伐及び保育の標準的な方法その他間伐及び保育の基準

既往の施業体系や間伐、保育の実施状況などを勘案し、計画事項を定めます。

ただし、最終的に目標とする森林の姿やコストの低減などを考慮した施業を行う場合に差し障りがある場合は、林業普及指導員などとの相談の上、目的に応じた時期や回数とします。

1 間伐を実施すべき標準的な林齡及び間伐の標準的な方法

間伐及び保育は、これまで造成されてきた人工林を健全な状態に維持していく上で必要不可欠な作業です。そのため、間伐及び保育作業について適切な時期及び方法により実施されるよう、計画的かつ積極的に推進します。また、施業の省力化や効率化の観点から、「環境保全に適した森林」を中心に列状間伐の導入に努めます。

植栽本数を低減した森林においては、地位級や樹冠のうつ閉状況、樹高成長量等を考慮し、目標林型に応じて、必要な間伐を実施します。

なお、間伐は、次表に示す内容を標準として、過度の競争関係を緩和することを旨として、森林の立木の成長度合いなどを勘案し、適切な時期、方法により実施します。

(スギ 2,500 本／ha 植栽)

地位	間伐回数	林齡（年）	樹高（m）	間伐率（%）	伐採後の成立本数
上	(自然枯死)				(2,300)
	初回	15	8	10	2,100
	2回目	20	11	14	1,800
	3回目	25	14	17	1,500
	4回目	30	16	27	1,100
	5回目	35	18	27	800
	6回目	45	22	25	600
	(7回目)	60	26	17	500
中	(8回目)	80	31	20	400
	(自然枯死)				(2,000)
	(除伐)				
	1回目	12	5	20	1,650
	2回目	28	11	27	1,200
下	(3回目)	43	16	36	770
	(4回目)	60	21	30	540
	(自然枯死)				
	1回目	80	24	26	400
下	2回目				
	(3回目)				
	(4回目)				
	間伐木の選定方法	間伐木の選定は、林分構造の適性化を図るよう形質不良木等を主として、上記の間伐率を目標とする。			

※（ ）書きは、大径材を生産する場合の高齢級間伐を示す。

※地位の上中下はそれぞれ特Ⅰ等地、Ⅱ等地、Ⅳ等地を示す。

※材積に係る伐採率は35%以下とする。

平均的な間伐の実施時期の間隔年数

林分の生育状況により判断しますが、次の表を参考に決定します。

標準伐期齢未満（人工植栽によるもので樹種を問わない）	おおむね10年
標準伐期齢以上（人工植栽によるもので樹種を問わない）	おおむね15年

2 保育の種類別の標準的な方法

保育は、次表に示す内容を標準として、当該森林の植生状況や立木の成長度合いなどを勘案し、適切に実施します。

保育の種類別の標準的な方法

(単位:年)

保育種類	樹種	実施すべき標準的な林齢及び回数								保育の方法
		初回	2回	3回	4回	5回	6回	7回	8回	
根踏み	スギ ヒノキ	1								融雪直後に植栽木（浮き根）の根元に土を掛けてよく踏み固める。
下刈り	スギ ヒノキ	2	3	4	5	6	7	8		植栽の翌年から年一回を原則とし雑草繁茂の著しい所は二回刈りを実施する。一回刈りは7~8月、二回刈りは一回目6月、二回目8月を基準とする。 ※4回目（又は4年目）以降の下刈りについては雑草木や植栽木の生育状況により必要性を検討した上で実施
雪起し	スギ ヒノキ	2	4	5	6	7	8	9	10	植栽後2年目から、融雪後直ちに実施する。
除伐	スギ ヒノキ	8	12							植栽後8年目から間伐までの間に造林木の成長が阻害されている箇所、阻害が予想される侵入木や形成不良木を除去する。実施時期は、10月頃を目安とする。
枝打ち	スギ ヒノキ	13	17	21	25	30				植栽後13年目から5回程度実施する。病害虫等の発生を予防するとともに、材の完満度を高め、優良材を得るために行う。実施時期は樹木の成長休止期の12月下旬~3月上旬頃とする。
つる切り	スギ ヒノキ	10	18							下刈り終了後、つるの繁茂の状況に応じて行う。実施時期は8~10月頃を目安とする。

3 その他必要な事項

除伐、間伐にあっては、山ぎわ地域を重点的に進め、目的外樹種であってもその生育状況、公益的機能の発揮及び将来の利用価値を勘案して、有用なものは保存し育成するものとする。

第4 公益的機能別施業森林区域及び当該公益的機能別施業森林区域内における施業の方法その他公益的機能別施業森林の整備に関する事項

公益的機能別施業森林とは、森林の有する公益的機能の別に応じて当該公益的機能の維持増進を特に図るための森林施業を推進すべき森林であり、越前地域森林計画で定める公益的機能別施業森林の区域の基準に基づき定めます。

公益的機能別施業森林などについては、森林の有する公益的機能の別に応じて「公益的機能別施業森林」と「木材の生産機能の維持増進を図るための森林施業を推進すべき森林」に区分します。

ただし、各機能が重複する場合は、それぞれの機能の発揮に支障がないような施業方法とします。

1 公益的機能別施業森林の区域及び当該区域における施業の方法

森林の保全に関する基本的な事項に示された森林の有する機能のうち、水源涵養、山地災害防止／土壤保全、快適環境形成、保健・レクリエーション、文化、生物多様性保全の高度発揮が求められており、これらの公益的機能の維持増進を図るための森林施業を積極的かつ計画的に実施することが必要かつ適切と見込まれる森林の区域を設定します。

具体的には、「水源涵養機能林」「山地災害防止機能林」「生活環境保全機能林」「保健文化機能林」とします。各機能が重複する場合は、それぞれの機能の発揮に支障がないような施業方法とともに、その区域が分かるよう明示します。

(1) 水源涵養機能林（水源の涵養の機能の維持増進を図るための森林施業を推進すべき森林）

ア 区域の設定

ダム集水区域や主要河川上流に位置する森林及び地域の用水源などの周辺に存する森林であり、

水源涵養機能の評価区分が高い森林など水源涵養機能の発揮を重視すべき森林を別表1により定めます。

イ 森林施業の方法

森林施業の方法として、下層植生や樹木の根を発達させる施業を基本とし、伐期の間隔の拡大とともに伐採に伴って発生する裸地の縮小及び分散を図ります。次表の伐期齢の下限に従った森林施業を推進すべき森林の区域については、別表2により定めます。

水源の涵養の機能の維持増進を図るための森林施業を推進すべき森林のうち、特に機能の発揮の必要のある森林については、長伐期施業を推進すべき森林とし、主伐の時期を標準伐期齢のおおむね2倍の林齢以上とともに、伐採に伴って発生する裸地の縮小及び分散を図ります。

森林の伐期齢の下限

区 域	樹 種	
	ス ギ	ヒノキ
水源涵養機能林	55年	60年
特に機能の發揮の必要な森林	おおむね90年	おおむね100年

(2) 山地災害防止機能林、生活環境保全機能林、保健文化機能林

(土地に関する災害の防止及び土壤の保全の機能、快適な環境の形成の機能又は保健文化機能の維持増進を図るための森林施業を推進すべき森林)

ア 区域の設定

次の①～③の森林など、土地に関する災害の防止及び土壤の保全機能、快適な環境の形成の機能又は保健文化機能の維持増進を図るための森林施業を推進すべき森林を別表1により定めます。

(ア) 山地災害防止機能林（土地に関する災害の防止及び土壤の保全機能の維持増進を図る森林）

土砂の流出・崩壊その他災害の防備のための森林で、山地災害防止機能の發揮を重視すべき森林を区域として設定し、これら機能の維持増進を図るための森林整備を効果的に推進します。山地災害防止機能の維持増進を図るため、下層植生の維持を図り適正な間伐又は保育を行い、根系の発達を確保することを主眼として、高齢級の森林への誘導や伐採に伴う裸地面積の縮小及び分散を基本とした森林施業を行います。

(イ) 生活環境保全機能林（快適な環境の形成の機能の維持増進を図る森林）

日常生活などに密接な関わりを持つ里山林などで、風や霧などの自然的要因の影響及び騒音や粉じんなど人為的要因の影響を緩和し、気温や湿度を調整するなど地域の快適な生活環境の保全に資する森林などの生活環境保全機能の發揮を重視すべき森林を区域として設定し、これら機能の維持増進を図るための森林整備を効果的に推進します。

(ウ) 保健文化機能林（保健文化機能の維持増進を図る森林）

優れた自然景観などを形成する保健・文化・教育的利用に適した森林などの保健文化機能の發揮を重視すべき森林又は地域の生態系や生物多様性の保存に不可欠な森林を区域として設定し、これら機能の維持増進を図るための森林整備を効果的に推進します。

なお、森林の構成及び配置状況、市民の意向などから判断して、風致の優れた森林の維持又は造成のために特定の樹種の広葉樹を育成することが適切な森林については、特定広葉樹育成施業を推進すべき森林として、その区域を定めます。

イ 森林施業の方法

次のaからcの森林のうち、これらの公益的機能の維持増進を特に図るための森林施業を推進すべき森林については、(ウ)の択伐による複層林施業を推進すべき森林として定め、それ以外の森林については、(イ)の複層林施業を推進すべき森林として定めます。

また、適切な伐区の形状・配置などにより、伐採後の林分においてこれらの機能の確保ができる森林は、(ア)の長伐期施業を推進すべき森林として定め、主伐の時期を標準伐期齢のおおむね2倍

以上とともに、伐採に伴って発生する裸地の縮小及び分散を図ります。

なお、保健文化機能林のうち、特に地域独自の景観などが求められる森林において、風致の優れた森林の維持又は造成のために特定の樹種の広葉樹を育成する場合は、(エ)の特定広葉樹育成森林を推進すべき森林として定めます。

それぞれの森林の区域については、別表2により定めます。

- a 傾斜が急な箇所、傾斜の著しい変移点を持っている箇所又は山腹の凹曲部など地表流水、地中水の集中流下する部分をもっている箇所、地質が基岩の風化が異常に進んだ箇所、基岩の節理又は片理が著しく進んだ箇所、破碎帶又は断層線上にある箇所、流れ盤となっている箇所、土壤などが火山灰地帯などで表土が粗じょうで凝縮力の極めて弱い土壤からなっている箇所、土層内に異常な滯水層がある箇所、石礫地からなっている箇所、表土が薄く乾性な土壤からなっている箇所などの森林。
- b 都市近郊林などに存在する森林であって郷土樹種を中心とした安定した林相をなしている森林、市街地道路などと一体となって優れた景観美を構成する森林や気象緩和、騒音防止などの機能を発揮している森林など。
- c 湖沼や瀑布、渓谷などの景観と一体となって優れた自然美を構成する森林、紅葉などの優れた森林美を有する森林であって主要な眺望点から望見されるもの、ハイキングやキャンプなどの保健・文化・教育目的利用の場として特に利用されている森林のうち、保健・レクリエーション機能及び文化機能の発揮が特に求められる森林など。

(ア) 長伐期施業を推進すべき森林

長伐期施業は、公益的機能をより高度に発揮させるとともに、大径材の生産を目標とし、原則として伐採の時期は標準伐期齢のおおむね2倍の林齢以上の時期とします。林木の成長による過密化に伴う林内相対照度の低下を防止して下層植生を適正に維持するため、適切に間伐を実施することとしますが、立木の伐り過ぎによる公益的機能の低下を防止するため、一定の蓄積を維持できるよう成長量相当分を間伐として伐採します。

長伐期施業を推進すべき森林の伐期齢の下限

区域	樹種	
	スギ	ヒノキ
山地災害防止機能林、生活環境保全機能林、保健文化機能林のうち、長伐期施業を推進すべき森林	おおむね90年	おおむね100年

(イ) 複層林施業を推進すべき森林

複層林の造成にあたっては、当該森林の林齢が標準伐期齢に達した森林について、伐採を実施して下層木の植栽、又は天然更新により実施します。

主伐後の伐採跡地については、早期更新を確保するため、伐採が終了した日を含む伐採年度（毎年4月1日から翌年3月31日までをいう。）の翌伐採年度の初日から起算して2年以内に、本計画において定める標準的な本数を基準とし、伐採に係る伐採材積の比率に応じて植栽します。

なお、天然更新を選択した場合は、伐採が終了した日を含む伐採年度の翌伐採年度の初日から起算して5年を経過する日までに更新の完了を確認します。また、更新が未了と判断される場合にあっては、7年を経過する日までに追加的な天然更新補助作業又は植栽を実施します。

造林樹種については、本計画において人工造林すべき樹種を主体として定めます。

また、複層林の造成後は、上層木の成長に伴って林内相対照度が低下し、下層木の成長が抑制されることから、下層木の適確な生育を確保するため、適時に間伐を実施することが必要ですが、この場合上層木の伐り過ぎによる公益的機能の低下を防止するため、一定の蓄積が常に維持されるものとします。

(ウ) 拗伐による複層林施業を推進すべき森林

(イ)の方法に加えて、拘伐の程度については景観の維持や保健・文化・教育的利用、生活環境保全機能の特質を阻害しない範囲としますが、適切な伐区の形状・配置、保護樹林帯の設置により当該機能の確保ができる場合は帯状伐採などの小面積皆伐によるものとします。ただし、材積伐採率については、いずれも30%以下（伐採後の造林が植栽による場合にあっては40%以下）とします。

(エ) 特定広葉樹育成施業を推進すべき森林

特定広葉樹は、現存樹種を主体として、地域独自の景観や多様な生物の生息及び生育環境を形成する森林を構成する樹種を指定します。

特定広葉樹の立木の伐採については、常に特定広葉樹の立木の蓄積が維持される範囲において行います。特定広葉樹以外の立木については、特定広葉樹が優勢となる森林を造成し又はその状態を維持するため、伐採を促進します。

天然更新に必要な母樹のない森林など植栽によらなければ特定広葉樹の立木の適切な生育を確保することが困難な森林の伐採跡地には、適確な本数の特定広葉樹を植栽し、また、天然更新が見込まれる場合においても、特定広葉樹の適切な更新を図るため必要に応じ刈り出し、植え込みなどの更新補助作業を行います。

特定広葉樹の適切な生育に必要な萌芽整理や下刈り、除伐などの保育を実施することとし、特にタケの侵入により特定広葉樹の生育が妨げられている森林については、継続的なタケの除去を行います。

2 木材の生産機能の維持増進を図るための森林施業を推進すべき森林の区域及び当該区域内における施業の方法

(1) 区域の設定

木材生産機能林は、林木の生育に適した森林や林道などの開設状況などから効率的な施業が可能な森林及び木材生産機能が高い森林で、自然的条件などから一体として森林施業を行うことが適當と認められる森林について、別表1により定めます。

なお、この区域のうち、林地生産力や傾斜、標高等の自然条件、林道からの距離などの社会的条件において施業が有利な区域については「特に効率的な施業が可能な森林」として、別表1に定めます。

この際、人工林を中心とした林分であることなど、周囲の森林の状況を踏まえるとともに、災害が発生する恐れのある森林を対象としないよう十分留意することとします。

(2) 森林施業の方法

木材など林産物を持続的、安定的かつ効率的に供給するため、生産目標に応じた主伐の時期及び方法を定めるとともに、植栽による確実な更新、保育及び間伐などを推進することを基本とし、特に山ぎわを中心とした森林施業の集約化、路網整備や機械化などを通じた効率的な森林整備を推進するとともに、特に効率的な施業が可能な森林における人工林の伐採後は原則、植栽による更新を行います。

ただし、福井県天然更新完了基準で示されているぼう芽更新が期待できる樹種の森林、鉄塔・電線・標識にかかる森林などを例外として除きます。

3 その他必要な事項

特になし

第5 委託を受けて行う森林の施業又は経営の実施の促進に関する事項

1 森林の経営の受委託等による森林の経営規模の拡大に関する方針

大野市では、不在村森林所有者の増加及び森林所有者の高齢化が進んでいることから、森林組合などによる施業又は経営の受委託を促進し、当該所有者に対する普及や啓蒙活動を強化し、適正な森林施業の確保及び森林の経営規模の拡大に努めます。

2 森林の経営の受委託等による森林の経営規模の拡大を促進するための方策

森林所有者（不在村を含む）などへの長期の施業の委託など森林の経営の委託の働きかけを推進するとともに、森林組合などが施業の集約化に取り組む場合に必要となる情報の提供に協力します。

3 森林の施業又は経営の受託等を実施する上で留意すべき事項

森林の施業又は経営の受託などを実施し、間伐などの適切な整備及び保全を推進するための条件整備として、ＩＣＴ技術を活用した境界の整備など森林管理の適正化を図ります。

森林組合などは、森林所有者から長期の施業や経営の受託などを行う場合は、協定を締結し、委任内容や費用負担などについて明確にする必要があります。また、森林の施業などを受託する際には、事前に見積り書などを示し、費用負担について森林所有者に了解を得ることが必要です。

4 森林経営管理制度の活用に関する事項

(1) 森林の経営管理を森林所有者自らが実行することができない場合には、森林経営管理制度の活用を図り、森林所有者から経営管理権を取得した上で、林業経営に適した森林については意欲と能力のある林業経営者に経営管理実施権を設定するとともに、経営管理実施権の設定が困難な森林及び当該権利を設定するまでの間の森林については、森林環境譲与税を活用しつつ、市森林経営管理事業を実施することにより、適切な森林の経営管理を推進します。

(2) 木材の生産機能の維持増進を図るための森林施業を推進すべき森林や植栽によらなければ適確な更新が困難な森林として本計画に定められ、木材生産や植栽の実施が特に要請される森林について、

経営管理意向調査や森林現況調査、経営管理権集積計画の作成などを優先します。

5 その他必要な事項

間伐の適切な整備及び保全を促進するための条件整備として、航空レーザ測量による情報の提供及び開示など、ＩＣＴ技術を活用した森林境界明確化を推進するなど森林管理の適正化を図ります。

第6 森林施業の共同化の促進に関する事項

大野市の森林面積の多くを占める森林を所有している林家などの多くは5ha未満の小規模所有者であることから、森林施業を計画的、効率的に行うため、行政や森林組合、森林所有者など地域ぐるみで森林施業の推進体制を整備するとともに、各集落に実行責任者たるリーダーを配置し、集落単位で間伐をはじめとする森林施業の実施に関する同意形成を図ることにより、施業の共同実施並びに施業委託を積極的に推進します。

特に、大野市の林業労働力の中心的な担い手である森林組合への施業の受委託の推進を通じて、資本の整備、作業班の拡充や強化など事業実施体制の整備を図ります。

1 森林施業の共同化の促進に関する方針

効率的な施業を促進するため、施業実施協定が締結され、造林や保育、間伐などの森林施業を森林組合に委託する場合、優先的に補助事業を活用し間伐などの経費の一部を補助することで、施業実施協定の締結を政策的に推進します。

2 施業実施協定の締結その他森林施業の共同化の促進方策

施業の共同化を助長し、合理的な林業経営を推進するため、住民相互の同意が取れた地域では、施業実施協定の締結を促進し、高密度作業路網の早急かつ計画的な整備や造林、保育、間伐などの森林施業を森林組合などへの委託により、計画的かつ効率的な森林施業を推進します。

森林管理の重要性の認識を深めるとともに、林業経営への参画意欲の拡大を図り、施業実施協定への参画を促すために、森林の整備に対して消極的な森林所有者に対しては、地区集会などへの参加を呼びかけます。また、不在村森林所有者については、森林組合などがダイレクトメールなどをを利用して、地区集会などや施業実施協定への参画を促します。

3 共同して森林施業を実施する上で留意すべき事項

森林所有者が共同で森林経営計画を作成する場合には、次の事項を旨として作成します。

- (1) 森林経営計画を共同で作成する者（以下「共同作成者」という。）は、全員により各年度の当初などに年次別の詳細な実施計画を作成して代表者などによる実施管理を行うこととし、間伐を中心として施業は、可能な限り共同で又は意欲ある林業事業体などへの共同委託により実施すること。
- (2) 作業路網や土場、作業場などの施設の維持運営は、共同作成者の共同により実施すること。
- (3) 共同作成者の一人が施業などの共同化につき遵守しないことにより、その者が他の共同作成者に不利益を被らせることがないよう、予め個々の共同作成者が果たすべき責務などを明らかにすること。

- (4) 共同作成者の合意の下、施業実施協定の締結に努めること。

4 その他必要な事項

特になし

第7 作業路網その他森林の整備のために必要な施設の整備に関する事項

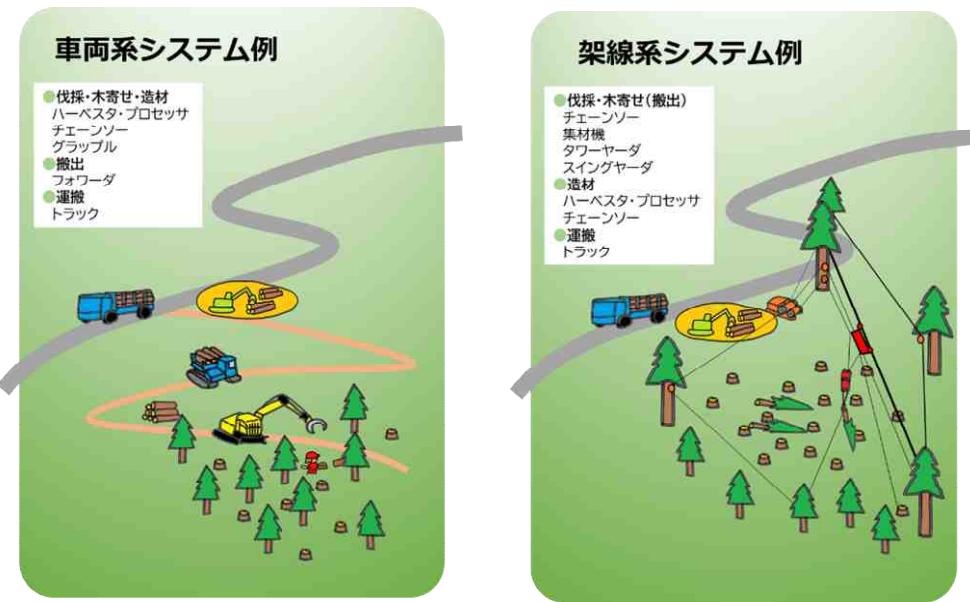
1 効率的な森林施業を推進するための路網密度の水準及び作業システムに関する事項

林道などの路網については、一般車両の走行を想定する「林道」や主として森林施業用の車両の走行を想定する「林業専用道」、集材や造材などの作業を行う林業機械の走行を想定する「森林作業道」からなるものとします。その開設については、森林の整備及び保全、木材の生産及び流通を効果的かつ効率的に実施するため、傾斜などの自然条件、事業量のまとまりなど地域の特性に応じて、環境負荷の低減に配慮しつつ推進します。

なお、林道などの整備にあたっては、山ぎわなどの将来にわたり育成单層林として維持する森林などを主体に、効率的な森林施業や木材の大量輸送などへの対応の視点を踏まえて推進していきます。効率的な森林施業を推進するための路網密度の水準及び作業システムの基本的な考え方は、次表に示すとおりです。

区分	作業システム	路網密度 (m/ha)	基幹路網 (林道・林業専用道)
緩傾斜地 (0° ~ 15°)	車両系 作業システム	110m以上	30~40m
中傾斜地 (15° ~ 30°)	車両系 作業システム	85m以上	23~34m
	架線系 作業システム	25m以上	
急傾斜地 (30° ~ 35°)	車両系 作業システム	60〈50〉m以上	16~26m
	架線系 作業システム	20〈15〉m以上	
急峻地 (35° ~)	架線系 作業システム	5m以上	5~15m

注：「急傾斜地」の〈 〉書きは、広葉樹の導入による針広混交林化など育成複層林へ誘導する森林における路網密度です。



2 路網の整備と併せて効率的な森林施業を推進する区域に関する事項

作業路網などの整備と併せて効率的な森林施業を推進する区域（路網整備等推進区域）を設定し図示します。

3 作業路網の整備に関する事項

(1) 基幹路網に関する事項

ア 基幹路網の作設にかかる留意点

安全の確保や土壤の保全などを図るため、適切な規格・構造の路網の整備を図る観点等林道規程（昭和48年4月1日48林野道第107号林野庁長官通知）及び林業専用道作設指針（平成22年9月4日22林整第602号林野庁長官通知）を基本として、福井県が定める林業専用道作設指針に則り開設します。

イ 基幹路網の整備計画

大野市に関する基幹路網について、越前地域森林計画に記載されている林道を含む基幹路網の開設・拡張に関する計画を別表3に記載します。

ウ 基幹路網の維持管理に関する事項

「森林環境保全整備事業実施要領」（平成14年3月29日付け13林整第885号林野庁長官通知）「民有林林道台帳について」（平成8年5月16日8林野基第158号林野庁長官通知）などに基づき、管理者を定め、台帳を作成して適切に管理します。

(2) 細部路網に関する事項

ア 細部路網の作設に係る留意点

継続的な使用に供する森林作業道の開設について、基幹路網との関連の考え方や丈夫で簡易な規

格・構造の路網を整備する観点などから森林作業道作設指針（平成22年11月17日林整第656号林野庁長官通知）を基本として、福井県が定める森林作業道作設指針に則り開設します。

イ 細部路網の維持管理に関する事項

森林作業道作設指針などに基づき、森林作業道が継続的に利用できるよう、適正に管理します。

4 林産物の搬出方法

「主伐時における伐採・搬出指針」（令和3年3月16日付け2林整整第1157号）及び「伐採作業と造林作業の連携等に関するガイドライン」（令和3年3月31日付け県材第209号）を踏まえ、地形等の条件に応じて路網と架線を適切に組み合わせて実施します。

また、作業システム・木材生産量に対応した山土場の整備・配置・木材運搬トラックの規格、（木材を出荷先へ直送しない場合の）大型トラックへの積替え場所の検討等を十分に行い、伐採から運搬まで一連の工程の低減を図ります。

5 その他必要な事項

特になし

第8 その他森林整備の方法に関し必要な事項

1 林業に従事する者の養成及び確保に関する事項

大野市の林家の大部分は、小規模所有者であるため生産性も低く、また、木材の価格の低迷により林業のみで生計を維持することは困難である場合が多くみられます。したがって、森林施業の集約化を通じて合理化を進めるとともに、農業との複合経営による経営の健全化を目標とし、林道、林業専用道、森林作業道などの路網整備による生産コストの低減を図ります。森林所有者をまとめて集約化し、低コストな路網の整備や施業プランを提案する施業プランナーの養成が求められています。

林業労働者が減少する中、労働力を確保する必要があります。雇用関係の明確化を図るため、林業事業体の事業主は雇入れ時に、林業事業体の名称、雇用期間などを記した雇入通知書を交付するよう、普及啓発を行います。

また、雇用の安定化を図るため、経営の多角化や複数の林業事業体との共同化、事業量の安定的確保を進めるとともに、地域条件や自然環境を生かして冬期間の就労を確保し、林業労働者の通年雇用、月給制の導入や社会保険の加入などを促進します。

森林組合については、高性能林業機械の積極的な導入により、作業の効率化に努めるとともに、作業班の編成を拡充することにより体質改善を図り、組合員と密着した協同組合としての機能を十分に発揮できるよう、各種事業の受委託の拡大及び作業班の雇用の通年化と近代化に努めます。

林業労働者の主たる就労の場である森林組合の各種事業の受委託の拡大などを図りつつ、作業班員の労働安全の確保や各種社会保険への加入など就労条件の改善に努めるとともに、林業従事者に対し生産拡大や効率化につながるICT技術などの技術向上研修、林業講習会などへの参加を支援し、林業技術の向上や各種資格を取得するための条件整備を行います。

2 森林施業の合理化を図るために必要な機械の導入の促進に関する事項

大野市の森林の人工林を高齢級に誘導し、多様な森林に整備していくためには、今後も間伐の実施が必要です。また、主伐期を迎える人工林が増加するため、利用間伐も増加する傾向にあります。

一方、林家の経営は零細かつ分散しており、林道などの基盤整備が十分でないことなどから、機械化の遅れは顕著であります。

林業就労者の減少及び高齢化の傾向の中にあって、森林施業の効率化を図るためにには、林業の機械化は必要不可欠であることから、生産性の向上、労働強度の軽減、稼働率の向上及び生産コストの低減を図るために傾斜地の多い地形条件や樹種などに対応した機械の導入を図るものとし、導入を支援していきます。

そのため、林業事業体には地域にあった高性能林業機械の普及、高性能林業機械オペレーターの養成を促進し、機械作業に必要な路網などの施設の整備に努めます。機械の導入にあたっては、作業能力だけではなく、造材や集材、運材など既存の機械の作業能力を踏まえ、新たなシステムとして作業効率の向上を図ることに留意し、林業機械の導入の促進に努めます。

3 林産物の利用の促進のために必要な施設の整備に関する事項

大野市における素材の流通や加工については、森林資源の成熟度が低いことから、いずれも小規模、分散的であり、流通や加工コストの低減が重要な課題です。

間伐材については、製紙用チップの生産に加え木質バイオマス発電施設の主燃料としての需要が見込まれており、資源の有効利用が図られることとなります。

さらに、合法的に伐採されたことが確認できた木材や木材製品を消費者や事業者などが選択できるよう、合法伐採木材などの流通や利用について、関係者一体となって推進するよう努めます。

特用林産物のうち、大野市の特産品のひとつであるマイタケについては、和泉地区において生産が積極的に行われており、新工場の建設で増産体制と栽培技術が確立されました。また、シイタケについては、大野市内全体において生産が行われています。薬用類のうちオウレンとキハダについては、現在、福井県内では大野市でのみ生産されている貴重な林産物であり、特にオウレンは、その栽培技術が平成27年に日本森林学会の「林業遺産」に認定されました。

しかしながら、マイタケ以外は家族経営が主であり、生産者の高齢化や他県の大規模生産事業者の影響などにより、全体的に生産量が減少傾向にあります。

今後については、経営の共同合理化及び品質の向上を図り、流通業者との連携により販路の拡大に努め生産振興を図ります。

また、自然志向に着目し、これまで利用されなかった樹木や山菜などを地域の新たな資源として見直し利用方法を開発します。

4 その他必要な事項

大野市木材利用基本方針に基づき、建築材料としての木材の利用促進の観点から、公共建築物について木造化を促すとともに、木造化が困難と判断されるものを含め、内装などの木質化を促します。

また、建築材料以外の木材の利用促進の観点から、土木や農林などの公共工事に利用可能な土木資材(チップなど含む)としての活用、公共建築物などにおいて使用される机、いす、書棚などの備品及び

紙類や文具類などの消耗品について、木材をその原材料として使用したものを利用の促進を図るとともに、木質バイオマスを燃料とする暖房機器などの導入について、木質バイオマスの安定的な供給の確保や公共建築物の適切な維持管理の必要性を考慮しつつ、その促進を図ります。

さらに、民間が整備する公共的な建築物においても積極的に木材が利用されるよう、木材の利用の促進を幅広く呼びかけるとともに、その理解と協力を得るよう地域住民への木材の優れた特性などのPR活動に取り組みます。

また、一般の住宅や倉庫などの建築においてもさらなる木材の利用を普及していくため、効果的な施策の実施や支援などを積極的に行っていきます。

III 森林の保護に関する事項

第1 鳥獣害の防止に関する事項

1 鳥獣害防止森林区域及び当該区域内における鳥獣害の防止の方法

野生鳥獣による森林の被害状況などに応じ、当該鳥獣害を防止するための措置を実施すべき森林の区域及び当該区域内における鳥獣害の防止の方法について、越前地域森林計画で定める鳥獣害の防止に関する事項を踏まえ、次の(1)及び(2)のとおり定めます。

(1) 区域の設定

「鳥獣害防止森林区域の設定に関する基準について」（平成28年10月20日付け28林整研第180号林野庁長官通知）に基づき、ニホンジカやクマなどにより被害を受けている森林及び被害が生ずるおそれのある森林などについて、その被害の状況や生息状況を把握できる全国共通のデータや県の調査などに基づき、林班を単位として鳥獣害防止森林区域を別表4に定めます。

(2) 鳥獣害の防止の方法

鳥獣害の防止の方法について、ニホンジカやクマなどによる被害の防止に効果を有すると考えられる方法により、次のア又はイに掲げる被害防止対策を大野市の実情や森林の被害状況に応じて実施することとし、特に人工植栽が予定されている森林を中心に推進します。

なお、被害防止対策の実施にあたっては、鳥獣保護管理施策や農業被害対策などと連携し調整を図ります。

ア 植栽木の保護措置

ネット柵などによる林地への侵入防止及びテープ巻きやネット巻きなどによる剥皮防止

イ 捕獲

わな捕獲（ドロップネットやくくりわな、囲いわな、箱わななどによるものをいう。）、誘引狙撃などの銃器による捕獲などの実施

2 その他必要な事項

鳥獣害防止森林区域内（ニホンジカ）において、人工植栽が計画されている場合は、被害の防止の方法の実施状況について、森林法第10条の8第2項に基づく伐採及び伐採後の造林の届出や森林所有者などの聞き取り調査又は現地調査などにより確認します。（森林経営計画認定森林においては、森林経営計画の認定権者が確認する。）

なお、被害の防止の方法が実施されていない場合には、森林所有者などに対し助言や指導などを通じて被害の防止を図ります。

第2 森林病害虫の駆除及び予防、火災の予防その他の森林の保護に関する事項

1 森林病害虫等の駆除及び予防の方法

(1) 森林病害虫等の駆除及び予防の方針及び方法

森林病害虫被害の防止については、被害の実態を適確に把握し、被害の終息に向けた適切な措置を講

じます。

(ア) 松くい虫被害対策

森林病害虫等防除法に基づく保全すべき松林などにおいて、予防や駆除対策、森林整備を総合的に実施することで、松林の持つ公益的機能の持続的発揮を図ります。

(イ) ナラ枯れ被害対策

森林病害虫等防除法に基づき、自然公園など自然景観と一体化した地域や施設周辺などを中心に、予防や駆除対策を講じます。

(2) その他

森林病害虫による被害の未然防止、早期発見及び早期駆除に向け、森林所有者へ森林病害虫に関する情報提供などを行うとともに、県や森林組合などと連携し、適確な被害状況の把握に努め、森林病害虫防除の円滑な実行を確保します。

2 鳥獣害対策の方法（第1に掲げる事項を除く。）

第1の1の(1)に定める対象鳥獣以外の鳥獣による森林被害及び鳥獣害防止森林区域以外の対象鳥獣による森林被害については、県の定める特定鳥獣保護管理計画に基づく個体数調整を進めるとともに、ネット柵などによる林地への侵入防止、テープ巻きやネット巻きなどによる剥皮防止など予防策を講じていきます。鳥獣による森林被害の実態把握に努め、農業分野とも連携しながら総合的な被害対策に努めます。

3 林野火災の予防の方法

近年、森林レクリエーションや山菜採取などで森林への入り込み者が増加しており、これに伴って山火事の危険性が増大しています。山火事防止意識の普及啓蒙のため、標識類の設置や広報を行い、林野火災の未然防止に努めます。

4 森林病害虫の駆除等のための火入れを実施する場合の留意事項

火入れにあたっては、風速や湿度などの気象状況や火入れ地の地形状況を勘案し、傾斜地においては上方から下方に向かって火入れするなど、延焼のおそれがないことを十分に確認し、小区画ごとに実施します。乾燥に関する注意報、警報又は火災警報が発令されたときは速やかに消火するよう指導を行います。

5 その他必要な事項

特になし

IV その他森林の整備のために必要な事項

1 森林経営計画の作成に関する事項

森林経営計画を作成するにあたり、次に掲げる事項について適切に計画します。

- (1) IIの第2の3の植栽によらなければ適確な更新が困難な森林における主伐後の植栽
- (2) IIの第4の公益的機能別施業森林の施業方法
- (3) IIの第5の3の森林の施業又は経営の受託などを実施する上で留意すべき事項及びIIの第6の3の共同して森林施業を実施する上で留意すべき事項
- (4) IIIの森林の保護に関する事項
- (5) 森林法施行規則第33条第1号ロの規定に基づく区域

区域名	林班	区域面積(ha)
小矢戸・太田・矢・牛 ヶ原区域	391・392・393・394・395・396・397・ 398・399・400・401・402・403・404	798.76
丁・犬山・鍬掛・深井 区域	368・369・370・371・372・373・374・ 375・376・377・378・379・380・381・ 382・383・384・385・386・387・388・ 389・390	771.07
上・下黒谷・阿難祖・ 上舌区域	345・346・347・348・349・350・351・ 352・353・354・355・356・357・358・ 359・360・361・362・363・364・365・ 366・367	938.63
木本・宝慶寺区域	310・312・314・315・316・317・318・ 319・320・321・322・323・324・325・ 326・327・328・329・330・331・332・ 333・334・335・336・337・338・339・ 340・341・342・343・344	1,080.96
木本明谷・木本向谷 区域	299・300・301・302・303・304・305・ 306・307・308・309・311・313	647.9
森山・今井・ウエ山区 域	282・283・284・285・286・287・288・ 289・290・291・292・293・294・295・ 296・297・298	617.41
下笹又・上笹又・中島 区域	413・414・415・416・421・422・423・ 424・425・426・430・431・432・433・ 434	944.97
大雲谷区域	435・436・437・438・439・440・441・ 442・443・444	848.15
巢原区域	445・446・454・455・456・457・458・	1,882.98

	459・460・461・462・463・464・465・ 466・467・468・469・470・471	
中島区域	409・410・411・412・447・448・449・ 450・451・452・453	1,181.97
上 笹 又 ・ 上 秋 生 区 域	405・406・407・408・472・478・480・ 481・482・483・484・485・486・487・ 488・489・490・491・492・493・494・ 495・496・497・498	2,271.55
本 戸 ・ 黒 当 戸 ・ 笹 又 2 区 域	277・278・279・280・281・418・419・ 420・427・428・429・473・474・475・ 476・477・479	1,266.77
上 若 生 子 ・ 下 若 生 子 区 域	237・238・239・240・241・242・243・ 244・245・246・247・248・249・250・ 251・252・253・254・255・256・257・ 258・259・260・261・262・263・264・ 265・266・267・268・269・270・271・ 272・273・274・275・276・417	2,039.38
佐 開 ・ 蕨 生 ・ 西 勝 原 区 域	206・207・208・209・210・211・212・ 213・214・215・216・217・218・219・ 220・221・222・224・225・226・227・ 228・229・230・231・232・233・234・ 235・236	1,488.63
花 房 ・ 不 動 堂 ・ 南 六 呂 師 ・ 大 月 区 域	1・2・3・4・5・6・7・8・9・10・11・12・1 3・14・15・16	841.58
橋 爪 ・ 裳 道 ・ 堂 鳴 ・ 小 黒 見 ・ 柿 ケ 鳴 ・ 伏 石 ・ 東 勝 原 区 域	17・18・19・21・22・23・24・25・26・ 27・28・29・30・31・32・33・34・35・ 36	1,248.30
嵐 ・ 亥 向 谷 区 域	37・38・39・40・41・42・43・44・45・ 46・47・48・49・50・51・52・53・54・ 55・56・57・58・59・60・61・62・63・ 64・65・66	1,651.30
中 蝠 蝠 ・ 道 林 区 域	67・68・69・70・71・72・73・74・75・	2,544.60

	76・77・78・79・80・81・82・83・84・ 85・86・87・88・89・90・91・92・93・ 94・95・96・97・98・99・100・101・ 102・103・104・105・106・107・108	
田刈子区域	109・110・111・112・113・114・115・ 116・117・118・119・120・121・122・ 123・124・125・126・127・128・129・ 130・131・132・133・134・135・136・ 137・138・141・142・143・144・145・ 146	2,395.25
中洞・口越岩屋・魚 帰・鍋ヶ平区域	139・140・147・148・149・150・151・ 152・153・154・155・156・157・158・ 159・160・161・162・163・164・165・ 166・167・168・169・170・171・172・ 173・174・175・176・177	2,748.14
谷山・大漏斗山・下打 波向山・湯上区域	179・180・181・182・183・184・185・ 186・187・188・189・190・191・192・ 193・194・195・196・197・198・199・ 200・201・202・203・204・205	1,819.63
温見区域	500・501・502・503・504・505・506・ 507・508・509	1,218.27
野尻・大谷・箱ヶ瀬区 域	513・514・515・516・517・518・519・ 520・521・522・523	992.20
川合・長野区域	676・677・678・679・680・681・682・ 683	847.39
上大納・下大納区域	698・699・700・701・702・703・704・ 705・706・707・708・709・710・711・ 712・713・714・715・716・717・718・ 719・720・721・722・723・724・725・ 726	2,206.53
角野・下大納区域	685・686・687・688・689・690・691・ 692・693・694・695・696・697	1,049.69
後野・朝日前坂区域	638・639・640・641・642・643・644・ 645・646・647・648・649・650・651・ 652・653・654	2,030.77
角野・角野前坂区域	663・664・665・666・667・668・669・	1,248.66

	670・671・672・673・674・675	
下山・朝日・貝皿区域	620・621・622・623・624・625・626・ 627・628・629・630・631・632・633・ 634・635・636・637	1,091.78
上半原・東市布4区域	537・538・539・540・541・542・543・ 544	1,411.42
上半原・下半原その1区域	524・525・526・527・528・529・530・ 531・532・533・534・535・536・655・ 656・657・658・659・660・661・662	3,149.20
上半原・下半原その2区域	545・546・547・548・549・550・551	846.33
荷暮・箱ヶ瀬1区域	552・553・554・555・556・557・558・ 559	1,130.89
荷暮・箱ヶ瀬2区域	560・561・562・563・564・565・566・ 567・568・569・570・571・572・573・ 574・575	1,710.12
持穴・米俵区域	576・577・578・579・580・581・582・ 583・584・585・586・587・588	1,441.55
伊勢・久澤地その1区域	589・605・606・607・608・609・610・ 611・612・613・614・615・616・617・ 618・619	2,288.50
伊勢・久澤地その2区域	510・511・512・590・591・592・593・ 594・595・596・597・598・599・600・ 601・602・603・604・684	2,466.08

2 生活環境の整備に関する事項

特になし

3 森林整備を通じた地域振興に関する事項

森林の資源を活用した木材産業は裾野の広い産業と言われ、地域経済の要ともなりうる産業です。

このことから、市域の87%を占める森林の資源を有効に活用するため、明確な産地の証明が得られた市産材の流通を支援し、川上から川下までの地域経済の振興を図ることに努めます。

4 森林の総合利用の推進に関する事項

平家平ブナの森（巣原）、小池キャンプ場（上打波）、九頭竜国民休養地（角野）、九頭竜保養の里（下山）の各施設の周辺の森林については、森林とのふれあいの場として広く利用されていることから、管理施設、遊歩道、キャンプ場などの適正な施設の維持管理に努めます。

5 住民参加による森林の整備に関する事項

(1) 地域住民参加による取り組みに関する事項

市内の小・中学生をはじめとした青少年に対して、自然の大切さとふるさとへの愛着をはぐくむため、公民館や森づくりボランティア団体などにおけるまちづくり参加プログラムの中に森林や林業体験プログラムを組み込み、森林づくりへの直接参加を推進します。

この場合、越前おおのエコフィールドなどの活用を図ります。

(2) 上下流連携による取り組みに関する事項

九頭竜川は、大野市をはじめ下流の市町の水源として重要な役割を果たしています。このようなことから、下流の住民団体などにも森林造成に参加してもらうよう働き掛けます。

6 針広混交林化に関する事項

ア 針広混交林化に関する基本的事項

ダム上流など奥山の水源地域などの環境保全に適した森林において、公益的機能の発揮のため継続的な育成管理が必要なスギなど針葉樹については、天然力を活用した広葉樹の導入などにより針広混交林に誘導します。

イ 針広混交林化の方法

針広混交林化にあたっては、針葉樹一斉林を列状、帯状、群状（モザイク状）に伐採し、天然更新を主体とし広葉樹の導入育成を図ります。

なお、急傾斜で伐採によりなだれが発生するおそれがある箇所については、帯状、群状（モザイク状）伐採を基本とします。

また、広葉樹の導入にあたっては更新が確実に図られるよう次の事項に留意します。

(ア) 事前予測

伐採前に広葉樹の稚樹が侵入しているか、埋土種子があるか、周辺に広葉樹の母樹が存在するかを確認し更新が可能か判断すること。

(イ) 更新補助作業

必要に応じ造林技術基準で定める地表処理を行うこと。

(ウ) 更新完了基準

伐採後5年以内に福井県天然更新完了基準に基づく更新状況の確認を行い、更新が完了していない場合は、植栽又は追加的な更新補助作業を実施し、確実な更新を図ること。

7 森林経営管理制度に基づく事業に関する事項

令和元年度から15年をかけて、森林所有者への意向調査を行います。この結果を基に、森林所有者が自ら林業経営を行えない森林の管理について検討していきます。

8 その他必要な事項

(1) 保安林その他法令により施業について制限を受けている森林に関する事項

保安林その他法令により施業について制限を受けている森林においては、当該制限に従って施業を実施します。

(2) 森林施業の技術及び知識の普及・指導に関する事項

森林施業の円滑な実行確保を図るため、福井県などの指導機関、森林組合との連携をより密にし、普及啓発、経営意欲の向上に努めます。

(3) 市行造林の整備

現在の市行造林地について、森林組合に保育、間伐などを委託し実施します。

(4) 森林の土地売買の監視に関する事項

森林の無秩序な開発などを防止するため、森林法の規定により伐採や開発行為に対する規制がなされていますが、土地の売買に関しては、農地のような売買規制がありません。そのため、森林を適切に管理する意志のない者が森林を所有した場合、無許可や無届の伐採、産業廃棄物不法投棄、地下水などの過剰取水などさまざまな問題が生じるおそれがあります。

このため、生活用水などを供給するダム上流など重要な水源地をはじめとして、森林の巡視を強化することに加え、森林売買に係る届出制度など情報把握に努め、監視体制の強化に努めます。

[別表 1]

区分	森林の区域	面積 (ha)
水源涵養機能林（水源涵養機能の維持増進を図るための森林施業を推進すべき森林）	1、 6～19、 21～28、 30、 31、 35～91、 93～101、 103～177、 179～205、 207～220、 224～239、 242～261、 262のうち小班(1、 3～8、 10)除く、 263のうち小班(1～4、 6～11、 33～40、 42～45)除く、 264～270、 272～296、 297のうち小班(9～15、 17、 21～27)除く、 299のうち小班(1、 2、 15～24)除く、 300、 301、 303～311、 313～336、 338、 339、 342、 346～354、 355のうち小班(1～4)除く、 356、 357、 358のうち小班(6、 8、 9)除く、 359、 360、 362～367、 369～375、 377～379、 381、 386、 387、 402、 403、 405～498、 500～534、 535のうち小班(41～44、 93、 94、 98～111)除く、 536、 537、 538のうち小班(92～103)除く、 539のうち小班(5、 7、 12～16)除く、 540～554、 555のうち小班(20、 21、 24、 38、 54、 57～59、 68)除く、 556～606、 607のうち小班(3～9、 11、 12、 15、 31、 33)除く、 608～629、 630のうち小班(1、 2)除く、 631～670、 671のうち小班(3、 5～11、 14～16、 20、 21、 28、 29)除く、 672～695、 696のうち小班(1、 4、 17～20、 22～26、 32～38)除く、 697のうち小班(21～33、 35～41)除く、 698～726	52, 342

<p>土地に関する災害の防止及び土壤の保全の機能、保健文化機能の維持増進を図るための森林施業を推進すべき森林</p>	<p>山地災害防止機能林（土地に関する災害の防止及び土壤の保全の機能の維持増進を図るための森林施業を推進すべき森林）</p>	<p>1~8、10、15~19、21~28、30、32~51、56~64、66~81、84~86、88~91、97~100、108、110~112、114~128、130、134、139、146~160、162~164、168、170、171、173~177、179~185、188、190、191、193~199、202~216、218、219、221、224~237、242~246、248~261、262のうち小班(1、3~8、10)、263のうち小班(1~4、6~11、33~40、42~45)、267~270、272~280、282、283、284のうち小班(1~32、41)、285~292、295、296、297のうち小班(9~15、17、21~27)、298、299のうち小班(1、2、15~24)、300~335、337~340、342、344、346~349、351~354、355のうち小班(1~4)、358のうち小班(4、5、6、8、9)、359、361~376、378~381、386、388、389、391~396、398、400、402~409、411~430、432~440、442~448、451、453~457、459~461、463~468、469のうち小班(1~16、37~228)、470~477、479、480、481のうち小班(16~22)、484のうち小班(1~7)、485、487、489、490、493~495、497のうち小班(32~48)、498、500~509、511のうち小班(27~30)、513、514、519、520、522、524、525、531~533、535のうち小班(41~44、93、94、98~111)、538のうち小班(92~103)、539のうち小班(5、7、12~16)、540~543、545、553、554、555のうち小班(20、21、24、38、54、57~59、68)、560~563、570~586、592のうち小班(3)、593、597~604、605のうち小班(22)、606、607のうち小班(3~9、11、12、15、31、33、44、49、50)、608、609、612~616、620~629、630のうち小班(1、2、8、10、46~73)、631~638、639のうち小班(2、106、107)、642、644のうち小班(1~8、20)、645~647、648のうち小班(61、62)、651、654のうち小班(7~10)、662~668、671のうち小班(3、5~11、14~16、20、21、28、29)、674~679、689~694、696のうち小班(1、4、17~20、22~26、32~38)、697のうち小班(21~33、35~41)、700~712、713のうち小班(5~37)、714~716、718~726</p>	<p>36, 430</p>
<p>生活環境保全機能林（快適な環境の形成の機能の維持増進を図るための森林施</p>	<p>381、383、384のうち小班(109~118) 除く、385</p>	<p>146</p>	

	業を推進すべき 森林)		
	保健文化機能林 (保健文化機能 の維持増進を図 るための森林施 業を推進すべき 森林)	1~3、5~10、14のうち小班（16・17・ 35・38）、15~18、32~38、42、80~ 81、84~91、95、97~101、107のうち 小班（1、2、5~7、13~16）、108~ 112、114~131、134、139、196~ 199、203~219、221~222、224~ 237、242~258、269、270、271のうち 小班（20、21）、272、274~283、284 のうち小班（1~32、41）、285~ 296、298、300~325、336~349、351 ~354、356~357、359~391、405、 411~431、433~434、447~448、 451、453、459~462、472~480、 483、485、487、489、490、495、 498、510、513、514、519~522、532 ~533、540、548、550~554、561、 573~577、583~586、589、593、 606、620~629、631~634、642、 643、644のうち小班（1~8、20）、 645~647、651、662~666、673~ 674、677~679、688~694、718~726	20,744
	木材生産機能林（木材の生産機 能の維持増進を図るための森林 施業を推進すべき森林）	29、92、102~104、161、172、240 ~241、284、397、399、401、469、 510、512~526、532~534、539、 546~555、559、575~577、582、 584~591、594~596、598、600~ 604、606、608、609、619、621、 625~627、635~637、640~645、 651、655、662~664、668~674、 679~681、683~689、692、693、 695~698、700、702~704、706、 707、709、711~715、717~720、 722、725、726	12,567
	うち、特に効率的な施業が 可能な森林	284のうち小班（33~40）、469のう ち小班（17~36）、644のうち小班 (9~19)、713のうち小班（1~4）	72

[別表 2]

区分	施業の方法	森林の区域	面積(ha)
水源涵養機能の維持増進を図るための森林施業を推進すべき森林	伐期の延長を推進すべき森林	11～13、14のうち小班(16、17、35、38)除く、31、35のうち小班(17、21、22、24～26)、52～55、65、82、83、93、94、96、103～106、107のうち小班(1、2、5～7、13～16)除く、113、132、133、135～138、140～145、161、165～167、169、172、186、187、189、192、200、201、220、229のうち小班(40、45～47)、238、239、262のうち小班(1、3～8、10)除く、263のうち小班(1～4、6～11、33～40)除く、264～266、274のうち小班(12、13)、284のうち小班(1～32、41)除く、297のうち小班(9～15、17、21～27)除く、299のうち小班(1、2、15～24)除く、300のうち小班(88～91、93)、301のうち小班(1～12、15～21)、346のうち小班(248)、347のうち小班(8～14)、350、355のうち小班(1～4)除く、358のうち小班(4～6、8、9)除く、410、441、449、450、452、458、469のうち小班(1～16、37～228)除く、481のうち小班(16～22)除く、482、484のうち小班(1～7)除く、486、488、491、492、496、497のうち(32～48)除く、511の小班(27～30)除く、512、515～518、523、526～530、534、535のうち小班(41～44、93、94、98～111)除く、536、537、538のうち小班(92～103)除く、539のうち小班(5、7、12～16)除く、544、546、547、549、555のうち小班(20、21、24、38、54、57～59、68)除く、556～559、564～569、587、588、590～591、592のうち小班(4)除く、594～596、605のうち小班(22)除く、607のうち小班(3～9、11、12、15、31、33、44、49、50)除く、610、611、617～619、630のうち小班(1、2、8、12、47～74)除く、639のうち小班(26、107、108)除く、640～641、642のうち小班(8、9)、644のうち小班(1～8、20)除く、646のうち小班(53、54)、648のうち小班(61、62)除く、649、650、652、653、654のうち小班(7～10)、655～661、665のうち小班(145～153)、669、670、671のうち小班(3、5～11、14～16、20、21、28、29)除く、672、680～687、695、696のうち小班(1、4、17～20、22～26、32～38)除く、697のうち小班(21～33、35～41)除く	16,022

	く、 698、 699、 712のうち小班 (13~20、 22~25) 、 713のうち小班 (5~10、 22~37) 除く、 716のうち小班 (27) 、 717	
長伐期施業を 推進すべき森 林	1、 6~10、 14のうち小班 (16、 17、 35、 38) 、 15~19、 21~28、 30、 35のうち小班 (17、 21、 22、 24~26) 除く、 36~51、 56~64、 66~81、 84~91、 95、 97~101、 107のうち小班 (1、 2、 5~7、 13~16) 、 108~112、 114~131、 134、 139、 146~160、 162~164、 168、 170、 171、 173~177、 179~185、 188、 190、 191、 193~199、 202~205、 207~219、 224~228、 229のうち小班 (40、 45~47) 除く、 230~237、 242~261、 267~270、 272、 273、 274のうち小班 (12、 13) 除く、 275~283、 284のうち小班 (1~32、 41) 、 285~296、 300のうち小班 (88~91、 93) 除く、 301のうち小班 (1~12、 15~21) 除く、 303~311、 313~336、 338、 339、 342、 346のうち小班 (248) 除く、 347のうち小班 (8~14) を除く、 348、 349、 351~354、 356、 357、 358のうち小班 (4、 5) 、 359、 360、 362~367、 369~375、 377~379、 381、 386、 387、 402、 403、 405~409、 411~440、 442~448、 451、 453~457、 459~468、 469のうち小班 (1~16、 37~228) 、 470~480、 481のうち小班 (16~22) 、 484のうち小班 (1~7) 、 483、 485、 487、 489、 490、 493~495、 497のうち (32~48) 、 498、 500~510、 511の小班 (27~30) 、 513、 514、 519~522、 524、 525、 531~533、 540~543、 545、 548、 550~554、 560~563、 570~586、 589、 592のうち小班 (3) 、 593、 597~604、 605のうち小班 (22) 、 606、 607のうち小班 (44、 49、 50) 、 608、 609、 612~616、 620~629、 630のうち小班 (8、 10、 46~73) 、 631~638、 639のうち小班 (2、 107、 108) 、 642のうち小班 (8、 9) 除く、 643、 644のうち小班 (1~8、 20) 、 645、 646のうち小班 (53、 54) 除く、 647、 648のうち小班 (61、 62) 651、 654のうち小班 (4~7) 、 662~664、 665のうち小班 (145~153) 除く、 666~668、 673~679、 688~694、 700~711、 712のうち小班 (3、 4、 6、 9、 10、 16、 17、 39、 40、 42、 43、 45) 除く、 713のうち小班 (5~10、 22~37) 、 714、 715、 716のうち小班 (27) 除く、 718~726	36, 320

<p>土地に関する災害の防止及び土壤の保全の機能、快適な環境の形成の機能、保健文化機能の維持増進を図るための森林施業を推進すべき森林</p>	<p>1～10、林班14のうち小班（16、17、35、38）、15～19、21～28、30、32～34、35のうち小班（17、21、22、24～26）除く、36～51、56～64、66～81、84～91、95、97～101、107のうち小班（1、2、5～7、13～16）、108～112、114～131、134、139、146～160、162～164、168、170、171、173～177、179～185、188、190、191、193～199、202～219、221のうち小班（32、33、35、37、42～45）除く、222、224～228、229のうち小班（40、45～47）除く、230～237、242～261、262のうち小班（1～4、3～8、10）、263のうち小班（1～4、6～11、33～40、42～45）、267～270、271のうち小班（20、21）、272、273、274のうち小班（12、13）除く、275～283、284のうち小班（1～32、41）、285～296、297のうち小班（9～15、17、21～27）、298、299のうち小班（1、2、15～24）、300のうち小班（88～91、93）除く、301のうち小班（1～12、15～21）除く、302～346、347のうち小班（8～14）除く、348、349、351～354、355のうち小班（1～4）、356～357、358のうち小班（4～6、8、9）、359～396、398、400、402～409、411～440、442～448、451、453～457、459～468、469のうち小班（1～16、37～228）、470～480、481のうち小班（16～22）、483、484のうち小班（1～7）、485、487、489、490、493～495、497のうち小班（32～48）、498、500～510、511のうち小班（27～30）、513～514、519～522、524～525、531～533、535のうち小班（41～44、93、94、98～111）、538のうち小班（92～103）、539のうち小班（5、7、12～16）、540～543、545、548、550～554、555のうち小班（20、21、24、38、54、57～59、68）、560～563、570～586、589、592のうち小班（3）、593、597～604、605のうち小班（22）、606、607のうち小班（3～9、11、12、15、31、33、44、49、50）、608、609、612～616、620～629、630のうち小班（1、2、8、10、46～73）、631～638、639のうち小班（2、107、108）、642のうち小班（8、9）除く、643、644のうち小班（1～8、20）、645、646のうち小班（53、54）除く、647、648のうち小班（61、62）、651、654のうち小班（7～10）、662～664、665のうち小班（145～153）除く、666～668、671のうち小班（3、5～11、14～16、20、21、28、29）、673～679、688～694、696のうち小班（1、4、17～20、22～</p>	<p>38,648</p>
--	---	---------------

	26、32～38)、697のうち小班(21～33、35～41)、700～711、712のうち小班(13～20、22～25)除く、713のうち小班(5～10、22～37)、714、715、716のうち小班(27)除く、718～726	
複層林施業を推進すべき森林	複層林施業を推進すべき森林(択伐によるものを除く)	—
	択伐による複層林施業を推進すべき森林	—
特定広葉樹の育成を行う森林施業を推進すべき森林	384のうち小班(109～118)	11

[別表 3]

開設／拡張の別	種類	区分	路線名	延長及び箇所数	利用区域面積	前半5年間の計画箇所
開設						
開設 計				0		
拡張(改良)	自動車道		亥向谷線	1,400m	1,485ha	○
〃	〃		鍋ヶ平線	300m	88ha	○
〃	〃		下打波線	800m	76ha	
〃	〃		黒谷河内線	200m	211ha	○
〃	〃		佐開蕨生線	500m	136ha	
〃	〃		白谷線	100m	284ha	
〃	〃		深井・神当部線	300m	210ha	○
〃	〃		上若生・中島線	500m	523ha	○
〃	〃		川浦線	900m	623ha	○
〃	〃		久沢本線	2,500m	1,019ha	○
〃	〃		三面線	1,000m	422ha	○
〃	〃		多母谷線	1,000m	915ha	○
〃	〃		徳平線	500m	323ha	
〃	〃		根倉線	1,500m	893ha	○
〃	〃		水谷線	300m	98ha	○
〃	〃		林谷線	300m	1,444ha	
〃	〃		春木谷線	1,000m	250ha	○
〃	〃		奥越線	1,250m	2,227ha	○
〃	〃		法恩寺線	300m	969ha	○
〃	〃		金山・桃木線	50m	790ha	○
〃	〃		細ヶ谷線	100m	2,713ha	○
〃	〃		西山線	200m	133ha	○
〃	〃		荒島線	100m	486ha	○
〃	〃		下谷線	100m	985ha	○
〃	〃		上野線	300m	394ha	○
〃	〃		大野・池田線	1,000m	723ha	○
〃	〃		鬼谷線	200m	708ha	○
〃	〃		藤倉線	1,000m	246ha	○
〃	〃		仙翁谷・モッカ平線	200m	608ha	○
〃	〃		宝慶寺・千本杉線	1,200m	239ha	○

〃	〃		ミノ又線	50m	1, 974ha	○
〃	〃		三坂谷線	50m	589ha	
〃	〃		阿難祖原線	50m	1, 974ha	
〃	〃		入谷線	50m	349ha	
〃	〃		野々小屋線	100m	1, 260ha	○
〃	〃		志木谷線	50m	390ha	
〃	〃		知奈洞線	50m	1, 609ha	○
〃	〃		谷山線	50m	315ha	○
〃	〃		羽見谷線	100m	458ha	○
〃	〃		下若生子線	100m	41ha	○
〃	〃		湯の谷線	50m	421ha	○
〃	〃		美山～大野線	600m	129ha	○
〃	〃		紐谷線	50m	641ha	○
〃	〃		久沢支線	50m	251ha	○
〃	〃		和佐谷線	50m	232ha	○
〃	〃		此の木谷線	50m	360ha	○
〃	〃		鮎ヶ洞線	50m	312ha	
〃	〃		妙林線	50m	63ha	
〃	〃		明谷線	50m	153ha	
〃	〃		蛇鏡線	50m	493ha	
〃	〃		仏谷線	50m	34ha	
〃	〃		下鹿線	100m	164ha	
〃	〃		大矢戸線	100m	71ha	
〃	〃		清水上谷線	100m	56ha	
〃	〃		飯降線	100m	132ha	
〃	〃		大岳線	100m	31ha	
〃	〃		下黒谷線	100m	77ha	
〃	〃		草の峰線	100m	56ha	
〃	〃		真の谷線	100m	135ha	
〃	〃		阿難祖地頭方線	100m	170ha	
〃	〃		鎌塚線	100m	88ha	
〃	〃		森山線	100m	51ha	
〃	〃		平沢線	100m	85ha	
〃	〃		庵場寺線	100m	47ha	
〃	〃		蕨生線	100m	41ha	
〃	〃		孫谷線	100m	101ha	

〃	〃		小坂谷線	100m	38ha	
〃	〃		野田線	100m	127ha	
〃	〃		寺月線	100m	239ha	
〃	〃		嵐谷線	100m	430ha	
〃	〃		長島線	100m	11ha	
〃	〃		笛又峠線	100m	163ha	○
〃	〃		大雲谷線	100m	847ha	
〃	〃		滝ヶ谷線	100m	40ha	
〃	〃		湯の谷2号線	100m	89ha	
〃	〃		鎌塚2号線	100m	88ha	
〃	〃		阿難祖原2号線	100m	44ha	
〃	〃		小畠線	100m	376ha	
〃	〃		臼本線	100m	240ha	
〃	〃		子馬巣谷線	100m	139ha	
〃	〃		根倉二ノ又線	100m	148ha	
〃	〃		天頭線	100m	312ha	
〃	〃		洞ヶ谷線	100m	50ha	
〃	〃		兎越線	100m	102ha	
〃	〃		地蔵洞線	100m	111ha	
〃	〃		角野線	100m	122ha	
〃	〃		黒谷線	100m	657ha	
〃	〃		越戸線	100m	414ha	
〃	〃		九頭竜共生の森線	100m	19ha	
〃	〃		大谷線	100m	35ha	
拡張(舗装)	〃		亥向谷線	1, 550m	783ha	
〃	〃		嵐谷線	150m	430ha	
〃	〃		鬼谷線	300m	329ha	○
〃	〃		細ヶ谷線	850m	1, 116ha	
〃	〃		白谷線	430m	284ha	
〃	〃		真の谷線	500m	136ha	○
〃	〃		鎌塚2号線	500m	88ha	
〃	〃		上野線	2, 000m	394ha	○
〃	〃		金山・桃木線	2, 000m	790ha	○
〃	〃		奥越線	4, 000m	313ha	○
〃	〃		野々小屋線	4, 000m	1, 110ha	
〃	〃		春木谷線	2, 000m	250ha	○

〃	〃		和佐谷線	1,000m	232ha	
〃	〃		草の峰線	300m	56ha	
〃	〃		此の木谷線	1,000m	360ha	○
〃	〃		大野・池田線	2,000m	723ha	○
拡張 計			106路線	47,330m		46か所

[別表 4]

対象鳥獣の種類	森林の区域	面積(ha)
ニホンジカ	11, 13～34, 41～53, 57～64, 74～79, 139～141, 163～177, 180～187, 190～195, 200, 201, 208～221, 224～248, 251～258, 263, 266～304, 315～336, 345, 362～381, 383～389, 394～413, 416～430, 437～441, 443, 444, 449, 451～453, 458～470, 472～498, 500～502, 504, 506～527, 529～533, 535, 536, 540～550, 553～572, 579～619, 629～633, 638～645, 656, 657, 663～675, 677～696	36, 176



大野市は持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています。